

# ZENworks Reporting

## システムリファレンス

2016年11月

## 保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許ポリシー、および FIPS コンプライアンスの詳細については、<https://www.novell.com/company/legal/> を参照してください。

Copyright © 2016 Micro Focus Software Inc. All rights reserved.

# 目次

このガイドについて	5
<b>1 ZENworks Reporting</b>	<b>7</b>
1.1 概要	7
1.2 はじめに	8
1.2.1 ZENworks Reporting へのログイン	8
1.2.2 ZENworks Reporting のホームページ	9
1.2.3 リポジトリの参照	11
1.2.4 リポジトリの検索	12
1.2.5 リポジトリリソースの使用	14
1.2.6 リポジトリリストのソート	15
1.3 ロゴの置き換えについての重要な情報	15
<b>2 アドホックエディタ</b>	<b>17</b>
2.1 概要	17
2.1.1 データソース	17
2.1.2 Data Chooser ( データセレクト ) の使用	18
2.1.3 アドホックエディタのパネル	20
2.1.4 アドホックビューのタイプ	24
2.2 アドホックビューの作成	26
2.2.1 計算フィールドの作成	27
2.3 アドホックレポートの生成	27
2.3.1 既存のアドホックビューからのアドホックレポートの作成	27
2.3.2 アドホックビューの作成とレポートの生成	28
2.4 レポートのスケジューリング	28
2.4.1 レポートのスケジューリングと実行	29
2.4.2 出力オプション	30
2.4.3 スケジュールされたジョブのリストの表示	32
2.4.4 [Simple ( 単純 )] およびカレンダーのオプション	33
2.4.5 バックグラウンドでのジョブの実行	34
2.5 テーブルの操作	34
2.5.1 テーブルでのフィールドの使用	34
2.6 グラフの操作	39
2.6.1 グラフでのフィールドとメジャーの使用	39
2.6.2 グラフタイプの選択	40
2.6.3 グラフの使用	41
2.7 標準クロス集計の操作	42
2.7.1 クロス集計でのフィールドの使用	42
2.8 フィルタおよび入力コントロールの使用	45
2.8.1 フィルタの使用	45
2.8.2 入力コントロールの使用	50
2.8.3 入力コントロールとフィルタを利用できる状況	51
<b>3 ZENworks Reporting ダッシュボードの操作</b>	<b>53</b>
3.1 ダッシュボードの作成	53
3.2 ダッシュボードの表示と編集	55
3.2.1 ダッシュボードへのコントロールの追加	55
3.2.2 ダッシュボードへのカスタム URL の追加	56

3.2.3	画面サイズについて . . . . .	57
3.3	ダッシュボードの設計のヒント . . . . .	57
3.3.1	入力コントロールのヒント . . . . .	57
3.3.2	追加のヒント . . . . .	58
<b>4</b>	<b>ZENworks Reporting の管理</b> . . . . .	<b>61</b>
4.1	ユーザの管理 . . . . .	62
4.2	役割の管理 . . . . .	62
4.3	リソースの管理 . . . . .	63
4.3.1	許可 . . . . .	63
4.3.2	レポートの読み込み専用許可の設定 . . . . .	65
4.3.3	許可の割り当てによるアドホックビューの作成 . . . . .	66
4.3.4	事前定義されたレポートへの実行許可の割り当て . . . . .	67
4.3.5	フォルダの作成 . . . . .	67
4.3.6	フォルダの移動 . . . . .	67
4.4	ZENworks Reporting 設定の管理 . . . . .	68
4.4.1	ログ設定の管理 . . . . .	68
4.4.2	アドホック設定の管理 . . . . .	71
4.4.3	アドホックキャッシュ設定の管理 . . . . .	73
4.4.4	インポート設定の管理 . . . . .	75
4.4.5	エクスポート設定の管理 . . . . .	76
<b>A</b>	<b>ZENworks Reporting のトラブルシューティング</b> . . . . .	<b>79</b>

# このガイドについて

この『Novell ZENworks システムレポーティングリファレンス』には、ZENwork Reporting を使用したレポートの作成と管理に役立つ情報が含まれています。それらの情報は、次の章で構成されています。

- ◆ 7 ページの第 1 章「ZENworks Reporting」
- ◆ 17 ページの第 2 章「アドホックエディタ」
- ◆ 53 ページの第 3 章「ZENworks Reporting ダッシュボードの操作」
- ◆ 61 ページの第 4 章「ZENworks Reporting の管理」
- ◆ 79 ページの付録 A「ZENworks Reporting のトラブルシューティング」

## 対象読者

このガイドは、ZENworks Reporting 管理者を対象にしています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインヘルプの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用してください。

## その他のマニュアル

ZENworks Reporting には、製品の概要とその実装方法を説明したその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式) が用意されています。その他のマニュアルについては、[ZENworks マニュアル Web サイト \(https://www.novell.com/documentation/zenworks2017/\)](#) を参照してください。



# 1 ZENworks Reporting

ZENworks Reporting ソリューションは、異なる Novell ZENworks 製品と統合され、これらの製品にレポート機能を提供します。ZENworks Reporting には、次の機能が含まれます。

- ◆ 異なる Novell ZENworks 製品のレポートを生成できます。
- ◆ アドホックビューを使用して、データ分析を実行するために利用可能な、直観的なユーザインタフェースを提供します。データをドリルダウンする拡張機能も搭載されています。
- ◆ 最も一般的なユースケースに基づく事前定義済みレポートが同梱されています。これらのレポートを作業の開始点として使用できます。
- ◆ メールボックスに配信可能なレポートを生成するスケジューリング機能を提供します。
- ◆ 複数のファイル形式でレポートデータをエクスポートできます。
- ◆ データについて新しい洞察を得ることができるグラフが組み込まれています。
- ◆ LDAP ベースの認証をサポートしているため、組織内の非 ZENworks ユーザまたは管理者に対して容易なアクセスを提供します。

この章には、次のセクションが含まれています。

- ◆ [7 ページのセクション 1.1 「概要」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 1.2 「はじめに」](#)
- ◆ [15 ページのセクション 1.3 「ロゴの置き換えについての重要な情報」](#)

## 1.1 概要

ZENworks Reporting には、次の主要コンポーネントが含まれています。

- ◆ **Jaspersoft レポートエンジン** : ZENworks Reporting は、基本のレポートエンジンとして、Web ベースアプリケーションである Jaspersoft を使用します。
- ◆ **ドメイン** : Jaspersoft レポートエンジンは、ドメインを使用して、レポートに使用されるオブジェクトや項目を表示します。ドメインは、データベーススキーマにマッピングされたオブジェクトのコレクションです。ドメインは、ZENworks Configuration Management、Audit Management、および ZENworks Mobile Management などのさまざまな ZENworks 製品に使用できます。これらのドメインは、ZENworks Reporting には付属せず、個々の ZENworks 製品に付属しています。ZENworks には、ZENworks Configuration Management と ZENworks Audit という 2 セットのドメインが付属しています。ZENworks Reporting のインストール時に、指定された情報に基づいて、これらの 1 つ以上のドメインが ZENworks Reporting にインポートされます。ドメインは、圧縮されたリソースファイルの一部としてパッケージされています。
- ◆ **LDAP アクセス** : ZENworks Reporting は現在、LDAP ベース認証のみをサポートしています。したがって、ZENworks Reporting にログインするには、LDAP 資格情報を使用する必要があります。ZENworks Reporting は、Microsoft Active Directory および NetIQ e-Directory の両方をサポートしています。顧客は、インストールプロセスの一環として、LDAP グループと、

ZENworks Reporting で管理者特権を持つユーザを指定します。インストール中に、これらのグループは ZENworks Reporting の管理者の役割としてマッピングされます。その後、これらのグループに属するユーザは、管理者として ZENworks Reporting にログインできます。

ZENworks Reporting は、ユーザ要件に従って ZENworks データのビューを提供します。以下を使用して、データを表示できます。

- ◆ **アドホックビュー**：これらのビューは、主に ZENworks Reporting によって提供されるデータ分析ツールです。これらのビューは、さまざまなドメインオブジェクトをアドホックエディタにドラッグアンドドロップして作成できます。ユーザは、特定のオブジェクトを選択してフィルタにすることもできます。これらのフィルタを使用してデータのドリルダウンを実行することで、さらに深い洞察を得ることができます。これらのビューでも、ユーザはドメインで公開されるすべてのデータオブジェクトにアクセスでき、オブジェクトを入れ替えることができます。アドホックビューを使用して大きな成果が得られたら、オブジェクトの組み合わせを使用してレポートを生成することもできます。必要な結果を取得した後で、このビューを後で使用するために保存したり、アドホックレポートとして公開したりすることもできます。アドホックビューには、表形式ビュー、グラフビュー、クロス集計ビューがあります。
- ◆ **アドホックレポート**：これらのレポートは、アドホックビューをレポートとして保存するか、SQL クエリを作成してレポートに埋め込むことで作成できるカスタムレポートです。
- ◆ **事前定義されたレポート**：これらのレポートは、Novell によって作成されています。これらは適切な書式が設定されていて、Jaspersoft Studio Profession ツールを使用して作成されています。これらのレポートは、ドメインに固有で、圧縮されたリソースファイルで利用でき、インストール中に ZENworks Reporting にインポートされます。
- ◆ **ダッシュボード**：ダッシュボードは、関連する情報とともに提供される複数のレポートを 1 つにまとめたものです。ダッシュボードでは、ZENworks Reporting に付属する事前定義されたレポートを使用することも、アドホックレポートを使用することもできます。

## 1.2 はじめに

この項では、次の内容について説明します。

- ◆ [8 ページのセクション 1.2.1 「ZENworks Reporting へのログイン」](#)
- ◆ [9 ページのセクション 1.2.2 「ZENworks Reporting のホームページ」](#)
- ◆ [11 ページのセクション 1.2.3 「リポジトリの参照」](#)
- ◆ [12 ページのセクション 1.2.4 「リポジトリの検索」](#)
- ◆ [14 ページのセクション 1.2.5 「リポジトリリソースの使用」](#)
- ◆ [15 ページのセクション 1.2.6 「リポジトリリストのソート」](#)

### 1.2.1 ZENworks Reporting へのログイン

サーバを介してアクセスするデータを保護するために、ZENworks Reporting にログインする際はパスワードを使用する必要があります。

- 1 Web ブラウザで、「<http://<hostname>:<port-number>>」または「<http://<IP address>:<port-number>>」と入力します。ここで、<hostname> は、ZENworks Reporting をホストするデバイスの名前です。
- 2 ログインページで、ユーザ ID とパスワードを指定します。ユーザ ID は、LDAP ユーザ ID である必要があります。



- 3 デフォルトのロケールとタイムゾーンを変更するには、**Show locale & time zone (ロケールとタイムゾーンの表示)** をクリックし、ドロップダウンリストから必要なロケールとタイムゾーンを選択します。

- 4 **[Login]** をクリックします。

指定されたユーザ ID は、内部的に LDAP サーバで認証されます。認証後、LDAP サーバによりアプリケーションへのログインが許可されます。その後、ZENworks Reporting のホームページが表示されます。

## 1.2.2 ZENworks Reporting のホームページ


ホームページから、最も頻繁に使用するサーバ機能に素早くアクセスできます。メニューはユーザの許可に基づいて表示されます。



ホームページには、次のアイコンがあります。

- ◆ **レポート**：表示および実行できるレポートのリストが表示されます。
- ◆ **アドホックビュー**：Data Chooser (データセクタ) ウィザードが起動し、次にアドホックエディタが表示されます。ここで、サーバ上でレポートをインタラクティブに作成するための基本となるアドホックビューを設計できます。
- ◆ **ダッシュボード**：ダッシュボードデザイナを起動し、レポート、入力コントロール、グラフ、ラベル、および Web コンテンツを 1 つの統合ビューに統合します。
- ◆ **管理**：[Users and Roles (ユーザと役割)] ページを起動します。このメニューを表示したり、このメニューにアクセスしたりできるのは、管理者のみです。詳細については、[61 ページの第 4 章「ZENworks Reporting の管理」](#)を参照してください。

次の表では、ホームページのメニューを説明します。

メニュー	説明
	ホームページに戻ることができます。
ライブラリ	<p>現在のログインユーザが表示権限およびアクション実行権限を持つアドホックビュー、レポート、およびダッシュボードのみで構成されるリポジトリページを表示します。</p> <p>ライブラリには、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>作成日</b>: リソースが作成された日</li> <li>◆ <b>Modified Date ( 変更日 )</b>: リソースが最後に変更された日</li> </ul>
表示	<p>一般的に、作成日は変更日より前になります。ただし、次のようなシナリオでは、作成日は変更日の後になる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 既存のレポート(レポートA)が変更され、その後新しいレポート(レポートB)にコピーされた場合。[ライブラリ] リストでは、レポートBの作成日はレポートが作成された日ですが、変更日はレポートAが最後に変更された時刻を反映します。</li> <li>◆ 既存のレポートが、あるシステムからエクスポートされ、別のシステムにインポートされた場合。[ライブラリ] リストでは、<b>Reports Created Date ( レポート作成日 )</b>は、レポートが新しいシステムにインポートされた日付で、<b>Modified Date ( 変更日 )</b>は、レポートが元のシステムで最後に変更された日付です。</li> </ul> <p>◆ <b>検索結果</b>: フィルタパネルの検索条件によってフィルタされたリソースのリポジトリが表示されます。ホームページの<b>レポートを表示</b>をクリックして、この検索結果にアクセスすることもできます。</p> <p>検索機能の詳細については、<a href="#">12 ページの「検索結果のフィルタ」</a>を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>リポジトリ</b>: レポート、レポート出力、データソース、イメージなどのリソースを含むファイルおよびフォルダのリポジトリを表示します。</li> <li>◆ <b>メッセージ</b>: スケジュールされたレポートのエラーなど、システムメッセージのリストを表示します。</li> </ul>
管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>ユーザ</b>: [Manage User ( ユーザの管理 )] ページを表示します。</li> <li>◆ <b>役割</b>: [Manage Roles ( 役割の管理 )] ページを表示します。</li> <li>◆ <b>Server Settings ( サーバ設定 )</b>: [Server Settings ( サーバ設定 )] ページを表示します。</li> </ul>
	<p>これらのページを表示したり、これらのページにアクセスできるのは、管理者のみです。詳細については、<a href="#">61 ページの第 4 章「ZENworks Reporting の管理」</a>を参照してください。</p>

## メニュー 説明

- 作成
- ◆ **Ad-Hoc View (アドホックビュー)**: ビューをインタラクティブに設計するためのアドホックエディタを起動します。[はじめに] ページの **Create Ad Hoc View (アドホックビューの作成)** をクリックして、このビューにアクセスすることもできます。  
アドホックビューの作成については、[26 ページのセクション 2.2 「アドホックビューの作成」](#) を参照してください。
  - ◆ **レポート**: 必要なアドホックビューを選択して、レポートを作成するための [Create Report (レポートの作成)] ページを起動します。ホームページの **Create Report (レポートの作成)** をクリックして起動することもできます。  
レポートの作成については、[27 ページのセクション 2.3 「アドホックレポートの生成」](#) を参照してください。
  - ◆ **Dashboard (ダッシュボード)**: ダッシュボードデザイナーを起動し、レポート、入力コントロール、グラフ、ラベル、および Web コンテンツを 1 つの統合ビューに統合します。  
詳細については、[53 ページの第 3 章 「ZENworks Reporting ダッシュボードの操作」](#) を参照してください。

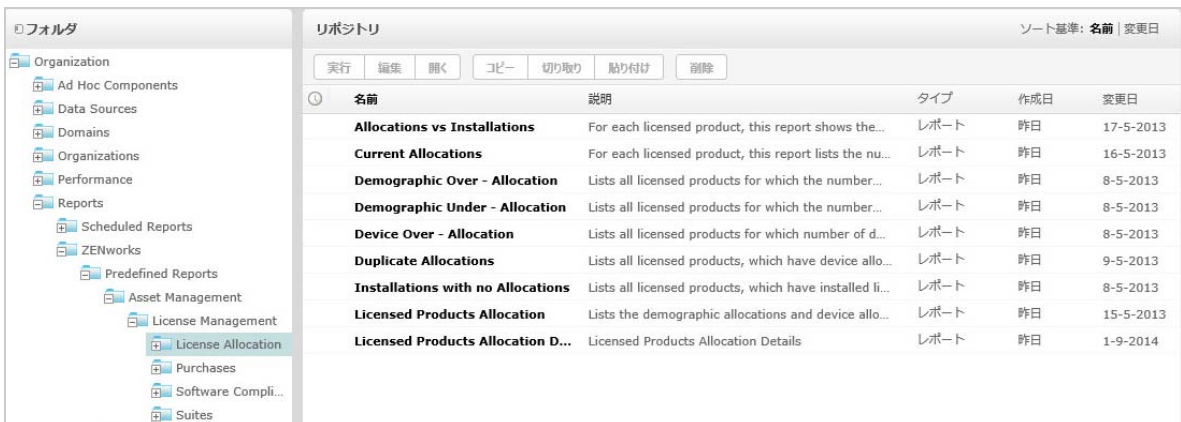
管理者としてログインした場合、ホームページには、ユーザ、役割、および設定を管理するためのオプションとメニューが追加で表示されます。

## 1.2.3 リポジトリの参照

リポジトリは、サーバのレポート、分析ビュー、および関連ファイルの内部ストレージです。リポジトリは、ファイルシステムなどのリソースを含む複数のフォルダに整理されています。ただし、ファイルシステムとは異なり、リポジトリは、ZENworks Reporting のみが直接アクセスできるプライベートデータベースとして格納されます。

次のいずれかの方法を使用して、ホームページから [リポジトリ] ページにアクセスできます。

- ◆ レポートを表示をクリックする
- ◆ [表示] > [リポジトリ] の順にクリックする
- ◆ [表示] > [検索結果] の順にクリックする
- ◆ ライブラリをクリックする



名前	説明	タイプ	作成日	変更日
Allocations vs Installations	For each licensed product, this report shows the...	レポート	昨日	17-5-2013
Current Allocations	For each licensed product, this report lists the nu...	レポート	昨日	16-5-2013
Demographic Over - Allocation	Lists all licensed products for which the number...	レポート	昨日	8-5-2013
Demographic Under - Allocation	Lists all licensed products for which the number...	レポート	昨日	8-5-2013
Device Over - Allocation	Lists all licensed products for which number of d...	レポート	昨日	8-5-2013
Duplicate Allocations	Lists all licensed products, which have device allo...	レポート	昨日	9-5-2013
Installations with no Allocations	Lists all licensed products, which have installed li...	レポート	昨日	8-5-2013
Licensed Products Allocation	Lists the demographic allocations and device allo...	レポート	昨日	15-5-2013
Licensed Products Allocation D...	Licensed Products Allocation Details	レポート	昨日	1-9-2014

[リポジトリ] ページでは、同じ下層オブジェクトセットの異なるビューを提供します。[リポジトリ] ページから、サーバに格納されているレポートや他のファイルにアクセスします。これらのフォルダへの適切な権限がある場合は、リポジトリコンテンツを参照できます。


## 1.2.4 リポジトリの検索

アクセス権に基づいて、リポジトリ全体を検索するか、フィルタを使用して検索を絞り込むことができます。リソース名、リソースの変更者、リソースのタイプ、リソース作成日、およびスケジュールに基づくフィルタを使用できます。

- ◆ [12 ページの「すべてのリソースの検索」](#)
- ◆ [12 ページの「検索結果のフィルタ」](#)


### すべてのリソースの検索

リポジトリ内のすべてのリソースを検索するには：


- 1 **表示** > **[検索結果の順]**をクリックするか、ホームページの右上隅の**検索**フィールドを使用します。
- 2 **[フィルタ]** パネルで、**All available (使用可能なものすべて)**、**Modified by me (自分が変更)**、または **Viewed by me (自分が表示)** のいずれかのフィルタを選択します。
- 3 **すべてのタイプ**を選択します。
- 4 クリックするボタン .

検索結果に、自分が表示許可を持つファイルが表示されます。リストでリソースをクリックして表示します。


### 検索結果のフィルタ

サーバページの一番上に検索条件を入力し、 をクリックした場合、サーバはフィルタを使用しません。検索機能は次のデフォルト設定を使用します。

- ◆ サブフォルダを含める
- ◆ ユーザが表示可能な最上部のフォルダで開始する
- ◆ レポート、レポート出力、または他のリソースを検索する
- ◆ アルファベット順に名前でソートする

**表示** > **[検索結果の順]**をクリックして、**[検索結果]** ページの  をクリックした場合、サーバはフィルタパネルのフィルタセットを使用します。

---

**注：** **[検索]** フィールドに入力した検索条件は、自動的にクリアされません。検索条件をクリアするには、 をクリックします。

---

フィルタを使用して検索を絞り込むことができます。たとえば、フィルタを使用して、最近表示したレポートを検索できます。次のタイプのフィルタを設定できます。

- ◆ User (ユーザ)
- ◆ リソース
- ◆ Access time (アクセス時間)
- ◆ Scheduled report (スケジュールされたレポート)

各フィルタを別々に設定できます。

[User ( ユーザ )] フィルタには、次の設定が含まれます。

フィルタ設定	説明
All available ( 使用可能なものすべて )( デフォルト )	すべてのリソースが表示されます。
Modified by me ( 自分が変更 )	ログインユーザによって最後に変更されたリソースを選択します。
Viewed by me ( 自分が表示 )	ログインユーザによって実行および表示されたリソースを選択します。このフィルタは、視覚化タイプに適用されます。また、レポートに含まれるイメージなどのリソースにも適用されます。

[リソース] タイプのフィルタには次の設定があります。

フィルタ設定	説明
All types ( すべてのタイプ )( デフォルト )	すべてのリソースを表示します。
Reports ( レポート )	レポートのみを表示します。
Report outputs ( レポート出力 )	スケジュールされていたレポート、またはバックグラウンドで実行されたレポートの出力を表示します。レポート出力は、HTML、PDF など、サポートされているいずれかのエクスポートタイプにできます。
Ad Hoc views ( アドホックビュー )	ビューのみを表示します。
Dashboards	ダッシュボードのみを表示します。
[Domains]	ドメインのみを表示します。
データソース	データソースのみを表示します。
Deprecated Reports ( 廃止されたレポート )	廃止されたレポートのみ表示します。

[Access time ( アクセス時間 )] フィルタには次の設定があります。時間の設定はすべて、ユーザの有効なタイムゾーンを基準にして相対的です。

フィルタ設定	説明
Any time (すべての時間)(デフォルト)	すべてのリソースを表示します。
今日	現在の日付中に表示または変更されたリソースを表示します。
従来	昨日表示または変更されたリソースを表示します。
Past week (過去の週)	今日を含む過去 7 日間に表示または変更されたリソースを表示します。
Past month (過去の月)	今日を含む、過去 30 日間に表示または変更されたリソースを表示します。

[Scheduled Report (スケジュールされたレポート)] フィルタには次の設定があります。

フィルタ設定	説明
Any schedule (すべてのスケジュール)(デフォルト)	すべてのリソースを表示します。
スケジュール済	スケジュール済みジョブがあるレポートを表示します。
Scheduled by me (自分がスケジュール)	現在のログインユーザによってスケジュールされたジョブがあるレポートを表示します。
Not scheduled (未スケジュール)	スケジュール済みのジョブおよび他のすべてのリソースタイプを含まないレポートを表示します。

リソース検索のヒント：

- ◆ 単語の一部を使用します。
- ◆ リソースの表示名またはその一部を検索します。
- ◆ リソースの説明に含まれる単語または単語の一部を検索します。
- ◆ 複数の単語を使用します。
- ◆ 大文字と小文字が区別される単語を使用します。
- ◆ フォルダ名は検索しないようにします。
- ◆ 用語間に引用符や記号を入力しないようにします。

## 1.2.5 リポジットリリソースの使用




[リポジットリ] パネルでリソースを検索した後で、次のタスクを実行できます。

- ◆ レポートを実行および表示するには、レポート名をクリックします。
- ◆ コンテキストメニューで他のオプションを実行するには、リソースの名前を右クリックします。たとえば、**編集**や**Open in Designer (Designer で開く)**などです。ユーザに割り当てられた権限に基づいて、コンテキストメニューにオプションが表示されます。

- ◆ 1つ以上のリソースを選択するには、リソース名以外の、行内の任意の場所をクリックします。結果リストの上にあるコンテキストメニューまたはボタンを使用します (実行、編集、Open (開く)、コピー、Cut (切り取り) (移動)、または削除)。リソースでサポートされていない操作の場合や、ユーザに許可がない場合は、これらのボタンは使用できません。たとえば、ダッシュボードまたはアドホックレポートを選択した場合、書き込み許可を持っていないと Open (開く) ボタンは使用できません。

フォルダや依存ファイル (リソースのイメージなど) にアクセスするための許可が必要な場合もあります。たとえば、レポートをスケジュールするには、サーバがレポート出力を保存するフォルダに対する読み込み、書き込み、または削除許可が必要です。

リポジトリパネルに次のアイコンが表示されることがあります。

- ◆  アイコンは、レポートの実行がスケジュールされているか、バックグラウンドで実行中であることを示しています。レポートに対してスケジュールされたジョブのリストを表示するには、このアイコンをクリックします。
- ◆  アイコンは、レポートに入力コントロール用の保存オプションがあることを示しています。保存オプションを表示するには、 アイコンをクリックします。

## 1.2.6 リポジトリリストのソート

レポートおよび他のリソースのリストの順序を変更するには、**Sort By (ソート基準)** コントロールを使用します。

- ◆ アルファベット順に (A を先頭にして) ソートするには、**名前** をクリックします。これはデフォルトのソート順序です。
- ◆ 最後に変更された日付と時刻でソートするには、**Modified Date (変更日)** をクリックします。

## 1.3 ログの置き換えについての重要な情報

レポートのイメージを手動で置き換えるには：

- 1 Jaspersoft Studio を起動します。
- 2 次のように **Repository Explorer** にイメージをアップロードします。
  - 2a **Repository Explorer** で対応するレポート単位 (フォルダ) を右クリックします。
  - 2b **新規 > イメージ** を選択し、**次へ** をクリックします。
  - 2c 新しいイメージの名前、**ID** を指定し、**次へ** を押します。
  - 2d 新しいイメージをアップロードし、**完了** をクリックします。
- 3 新しいイメージを必要とするレポート用の .jrxml ファイルを開きます。
  - 3a イメージ (デフォルトロゴ) をクリックし、**プロパティ** パネルに移動します。
  - 3b イメージに移動し、**Expression** 属性を "repo:<新しいイメージの名前>" に変更します。
- 4 jrxml ファイルを保存してこの変更を公開します。

デフォルトのロゴを自動的に置き換えるには：

- 1 ターミナルを開きます。
- 2 `/var/adm/reporting` に移動します。
- 3 タイプ `./change-logo.sh` と入力し、**Enter** を押します。新しいイメージのパスを指定します。

ロゴは、ZENworks Reporting の事前定義レポートに対してのみ置き換えられます。



# 2 アドホックエディタ

アドホックエディタは、アドホックビューを作成および編集するためのインタラクティブなデザイナーです。これにより、トピックまたはドメインからデータを探して分析することができます。アドホックビューは、レポートコンテンツの作成にも使用できます。

アドホックエディタに関する追加の詳細については、次の項を参照してください。

- ◆ 17 ページのセクション 2.1 「概要」
- ◆ 26 ページのセクション 2.2 「アドホックビューの作成」
- ◆ 27 ページのセクション 2.3 「アドホックレポートの生成」
- ◆ 28 ページのセクション 2.4 「レポートのスケジューリング」
- ◆ 34 ページのセクション 2.5 「テーブルの操作」
- ◆ 39 ページのセクション 2.6 「グラフの操作」
- ◆ 42 ページのセクション 2.7 「標準クロス集計の操作」
- ◆ 45 ページのセクション 2.8 「フィルタおよび入力コントロールの使用」

## 2.1 概要

アドホックエディタを使用すると、表、クロス集計、グラフなど、さまざまなタイプのレポートを作成できます。項目をドラッグアンドドロップしてレポートを作成できます。項目の追加や集計、グループの定義、レポートのラベルやタイトル設定、および各項目のデータのフォーマットを実行できます。このエディタを使用して、データを探してインタラクティブに分析することもできます。

- ◆ 17 ページのセクション 2.1.1 「データソース」
- ◆ 18 ページのセクション 2.1.2 「Data Chooser ( データセレクト ) の使用」
- ◆ 20 ページのセクション 2.1.3 「アドホックエディタのパネル」
- ◆ 24 ページのセクション 2.1.4 「アドホックビューのタイプ」

### 2.1.1 データソース

次のリポジトリオブジェクトは、アドホックビューを作成するためのデータソースへの接続を提供します。

- ◆ **ドメイン** : データベーススキーマにマッピングされるオブジェクトのコレクションです。ドメインは、ZENworks Configuration Management、Audit Management、および ZENworks Mobile Management などのさまざまな ZENworks 製品に使用できます。
- ◆ **トピック** : トピックは、JRXML ファイルとして作成され、サーバでデータソースに関連付けられます。サーバのドメインからトピックを作成することもできます。トピックの詳細については、『Jaspersoft Server ユーザガイド』を参照してください。

## 2.1.2 Data Chooser ( データセレクト ) の使用

データソースを選択すると、Data Chooser ( データセレクト ) が表示されます。



Pre-filters ( 事前フィルタ )、Display ( 表示 )、および Save as Topic ( トピックとして保存 ) ボタンを有効にするには、ソースから項目を選択して Selected Fields ( 選択したフィールド ) へ移動する必要があります。Pre-filters ( 事前フィルタ )、Display ( 表示 )、および Save as Topic ( トピックとして保存 ) 機能はオプションで、任意の順序で使用できます。Table ( テーブル )、[Chart ( グラフ )、または Crosstab ( クロス集計 ) をクリックすると、いつでも選択したデータに基づくビューをデザインできます。

Data Chooser ( データセレクト ) に関する追加情報については、次の項を参照してください。

- ◆ 19 ページの「項目の選択」
- ◆ 19 ページの「データの事前フィルタ」
- ◆ 20 ページの「デフォルトのラベル設定の変更」
- ◆ 20 ページの「設定を保存する」

## 項目の選択

フィールドをクリックして、ビューで使用する項目およびフィールドのセットを選択するか、ドメイントピックで使用できるようします。

- ◆ ソースパネルに、ドメインからのフィールドのセットが表示されます。▼ および ▶ アイコンを使用して、各セットを閉じるか展開します。
- ◆ **Selected Fields (選択したフィールド)** パネルに、ソースパネルから選択した項目が表示されます。パネル間でフィールドを移動するには、項目をドラッグするか、ダブルクリックするか、または項目を選択して矢印ボタンをクリックします。

## データの事前フィルタ

Data Chooser (データセレクト) ウィザードでデータを事前にフィルタしてから、Table (テーブル)、Chart (グラフ)、または Crosstab (クロス集計) をクリックするか、Save as Topic (トピックとして保存) をクリックできます。データを事前フィルタすると、ドメイントピックで選択できるデータや、アドホックビューに表示されるフィールドを制限できます。最終的なレポートに表示しないフィールドに対してフィルタを定義できます。最終的なレポートには、定義済み条件を満たすすべてフィルタが表示されます。フィルタとして使用する入力データを指定するようにユーザに促すレポートを設計することもできます。

Pre-filters (事前フィルタ) パネルは、サーバ内のビューを設計するための強力な機能を備えています。

フィルタを定義するには：

- 1 Data Chooser (データセレクト) ウィザードで、Pre-filters (事前フィルタ) をクリックします。
- 2 フィールドパネルのオプションを展開します。
- 3 ダブルクリックしてフィールドを選択します。
- 4 比較演算子を選択します。

テキストフィールドには、サブ文字列比較演算子 (starts with (次で始まる) または contains (次を含む) など)、および全文字列一致演算子 (equals (次と等しい) または is one of (次の一部である)) などがあります。全文字列一致演算子を選択すると、選択したフィールドの既存の値がすべて表示され、データベースからリアルタイムに取得されます。

フィルタパネルに、ドロップダウンリストが表示されます。リストには、複数の値を選択できるアカウント名が含まれます。

- 5 Available Values (使用できる値) で、各値をクリックして Selected Values (選択した値) へ移動して比較します。

Available Values (使用できる値) に表示される値が 51 以上ある場合は、🔍 をクリックして、値を検索します。Available Values (使用できる値) に表示できる項目の最大数を設定できます。

- 6 Locked (ロック済み) チェックボックスをオンにし、Selected Values (選択した値) での表示を制限します。

デフォルトでは、Locked (ロック済み) チェックボックスはオフになっていて、エンドユーザはレポートを実行する際にフィルタを使用できます。

- 7 OK をクリックします。
- 8 フィルタパネルで、変更をクリックして、条件を変更します。
- 9 OK をクリックし、変更を保存します。

リストから削除するには、行を選択し、削除をクリックします。

---

注：データ行は、すべての条件に一致している必要があります。データに適用されたフィルタは、定義したすべての条件に対して論理「AND」演算子である必要があります。

---

## デフォルトのラベル設定の変更

**Display (表示)** パネルを使用して、アドホックエディタのフィールドのデフォルトのラベルと順序を変更します。アドホックエディタでは、フィールドのラベルと順序をいつでも変更できます。ただし、設定を行うと、変更がドメインピックで更新されます。

**Display (表示)** パネルのオプションは、次のとおりです。

- ◆ フィールドの順序を変更するには、目的のフィールドの行内をクリックします。目的の位置に応じて、**Move to top (一番上に移動)**、**Move up (上に移動)**、**Move down (下に移動)**、または **Move to bottom (一番下に移動)** ボタンを使用します。  
  
1つのセット内でフィールドを移動できるほか、セットも移動できます。
- ◆ デフォルトでは、フィールド名は、指定されたフィールドから作成した行、列、またはメジャーの表示ラベルに変わります。フィールドまたはフィールドセットのデフォルトの表示ラベルを変更するには、行をダブルクリックし、テキストボックスに新しいラベルを指定します。
- ◆ ビューではセットは使用されません。ただし、ビューを素早く作成する場合、セットを使用してすべてのフィールドを同時に追加できます。
- ◆ アドホックエディタでセットを使用しない場合は、**Data Source Selection (データソースの選択)** の最上部にある **Flat List (フラットリスト)** を選択します。その後、フィールドのラベルを変更して並べ替えることができます。

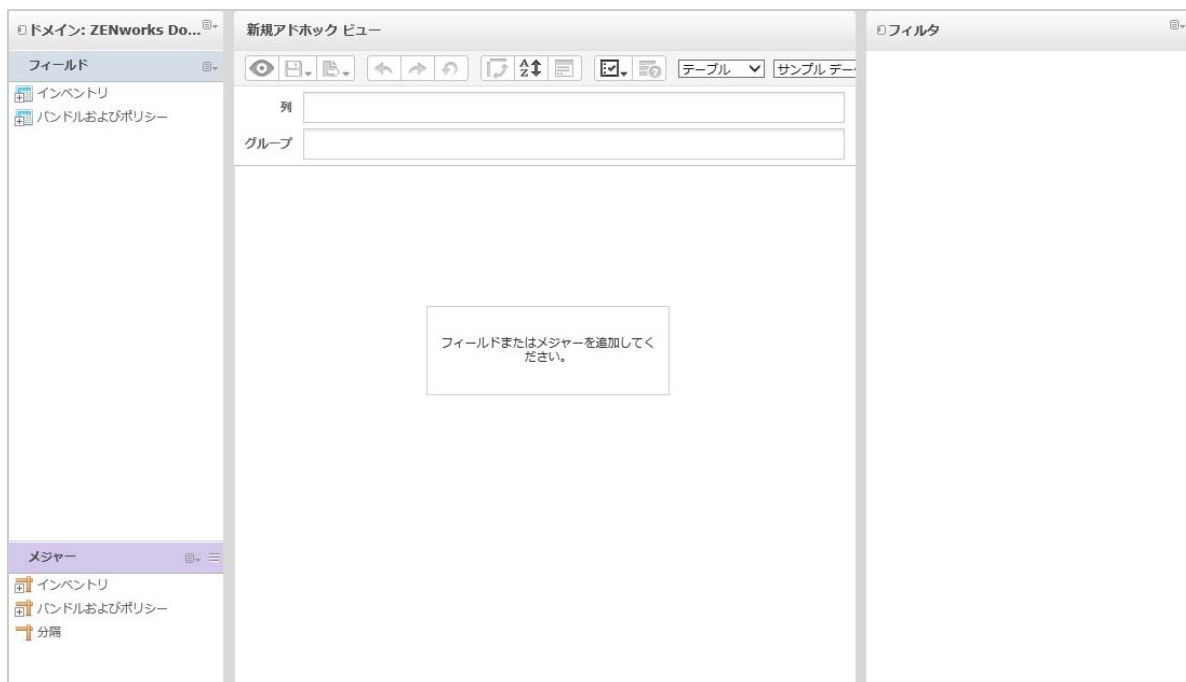
## 設定を保存する

**Save as-Topic-(トピックとして保存)** パネルで、Data Chooser (データセクタ) の設定をドメインピックとして保存するための名前と説明を指定できます。これらの設定を保存すると、そのフィールド、フィルタ、および表示ラベル設定を使用して、ドメインピックから異なるビューを作成できます。ドメインピックを編集して、設定を変更することもできます。

### 2.1.3 アドホックエディタのパネル

アドホックエディタをすると、さまざまなタイプのビューやレポートを作成できます。

図 2-1 アドホックエディタ



アドホックエディタパネルは、以下で構成されます。

- ◆ 21 ページの「[Data Source Selection ( データソースの選択 )] パネル」
- ◆ 21 ページの「[Ad-Hoc View ( アドホックビュー )] パネル」
- ◆ 24 ページの「[フィルタ] パネル」

## [Data Source Selection ( データソースの選択 )] パネル

Data Source Selection ( データソースの選択 ) パネルには、トピックまたはドメインから選択されて、フィールドおよび Measures (メジャー) に配置される項目のリストが含まれます。

このパネルを表示または非表示にするには、左上隅にある [Data Source Selection ( データソースの選択 )] アイコンをクリックします。Hide (非表示) オプションを使用すると、広いアドホックビューにコンテンツを配置できるため便利です。

## [Ad-Hoc View ( アドホックビュー )] パネル

Ad-Hoc View (アドホックビュー) パネルには、ビューに含まれるデータを制御および編成できるツールが用意されています。







図 2-2 [Ad-Hoc View (アドホックビュー)] パネル






Ad-Hoc View (アドホックビュー) パネルの詳細については、次の項を参照してください。

- ◆ 22 ページの「アドホックエディタツールバーのアイコン」
- ◆ 23 ページの「Layout Band (レイアウトバンド)」
- ◆ 24 ページの「グリッド詳細セレクタ」

## アドホックエディタツールバーのアイコン

アイコン	名前	説明
	Display Mode (表示モード)	エディタインタフェースを非表示にします。このモードは、エディタのフル機能セットのサブセットを提供します。
	保存	保存オプションを選択します。
	エクスポート	レポートをエクスポートします。選択できる形式は、PDF、Excel (改ページ調整あり)、Excel、CSV、DOCX、RTF、Flash、ODT、ODS、XLSX (改ページ調整あり)、XLSX (改ページ調整あり)、および XLSX です。
	元に戻す	前回の動作を元に戻します。
	やり直し	前回の動作をやり直します。
	Undo All (すべて元に戻す)	前回保存する前の状態にビューを戻します。

アイコン	名前	説明
	Switch Group (グループの切り替え)	<p>表示グループのモードを変更します。</p> <p>たとえば、列に [バンドルタイプ] を表示し、行に [Bundle Version (バンドルバージョン)] および [Bundle Create Date (バンドル作成日)] を表示している場合、このアイコンをクリックすると列情報が行として表示され、もう一度クリックするとその逆に切り替えることができます。</p> <p>クロス集計ビューおよびグラフビューでのみ有効です。</p>
	ソート	<p>テーブルデータをソートします。詳細については、<a href="#">37 ページの「テーブルのソート」</a>を参照してください。</p>
	Input Controls (入力コントロール)	<p>ビューに適用される入力コントロールを表示します。詳細については、<a href="#">50 ページのセクション 2.8.2「入力コントロールの使用」</a>を参照してください。</p>
	[Page Options (ページオプション)]	<p>次のページレベルオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Layout Band (レイアウトバンド)] を表示または非表示にする</li> <li>• タイトル領域を表示または非表示にする</li> </ul>
	View SQL Query (SQL クエリの表示)	<p>データを検証します。このアクションを実行するには、管理者権限が必要です。クエリは読み込み専用ですが、クリップボードまたは他のドキュメントにコピーしてレビューできます。デフォルトでは無効になっています。</p> <p>クエリを有効にするには、<b>管理</b> &gt; [Server Settings (サーバ設定)] &gt; [Ad Hoc Settings (アドホック設定)] の順にクリックし、<b>Enable View Query in Ad Hoc Editor (アドホックエディタでのクエリの表示を有効にする)</b> チェックボックスをオンにします。</p>
	ドロップダウン	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Table (テーブル)</b>、<b>Chart (グラフ)</b>、または <b>Crosstab (クロス集計)</b> ビューをリセットします。</li> <li>• 使用可能な <b>Sample Data (サンプルデータ)</b>、<b>Full Data (全データ)</b> または <b>No Data (データなし)</b> のサブセットをビューに表示する。クロス集計ビューまたはグラフビューでのみ有効です。</li> </ul> <p>アドホックビューを作成したり、パフォーマンスを向上させたりするには、<b>No Data (データなし)</b> 機能を使用します。アドホックビューを設計した後で、<b>Sample Data (サンプルデータ)</b> または <b>Full Data (フルデータ)</b> 機能を使用して、期待する結果を表示できます。</p>


## Layout Band (レイアウトバンド)

ツールバーの下には、次のフィールドが含まれる **Layout Band (レイアウトバンド)** があります。

- テーブルビューの場合、使用可能なフィールドは、**列およびグループ**です。
- グラフおよびクロス集計ビューの場合、使用可能なフィールドは、**列および行**です。

これらのフィールドのラベルと機能は、ビューによって異なります。フィールドおよび **Measures (メジャー)** からアドホックビューに項目をドラッグアンドドロップできます。

## グリッド詳細セレクト

[Layout Band (レイアウトバンド)] の下にはグリッド詳細セレクトがあります。このオプションは、グラフビューまたはテーブルビューでのみ使用できます。テーブルビューで、 をクリックして、次のオプションを選択します。

- ◆ Detailed Data (詳細データ)
- ◆ Totals Data (合計データ)
- ◆ Details and Totals (詳細と合計)

## [フィルタ] パネル

フィルタパネルには、ビューに対して定義されたフィルタが表示されます。フィルタ値を設定し、Ad-Hoc View (アドホックビュー) パネルに結果を表示できます。フィルタパネルを表示および非表示にするには、フィルタパネルの右上隅の [フィルタ] アイコンをクリックします。

詳細については、45 ページのセクション 2.8 「フィルタおよび入力コントロールの使用」を参照してください。

## 2.1.4 アドホックビューのタイプ

アドホックエディタでは、次の表示タイプを選択できます。

- ◆ 24 ページの「テーブル (複数)」
- ◆ 25 ページの「グラフ」
- ◆ 25 ページの「クロス集計」

### テーブル (複数)

テーブルビューは、データベースの値を表示したり、列の値を集計したりする場合に使用します。テーブルビューは、列、行、およびグループから構成されます。

グループを使用すると、任意のフィールド内の同一の値で行をグループ化し、グループ化された値ごとに中間集計を表示できます。たとえば、バンドル詳細のテーブルビューには、各バンドルのバンドル名、バージョン、および作成日を示す列が含まれ、その行にはバンドルタイプが表示されます。

バンドルタイプ	バンドル名	バージョン	作成日
パッチバンドル	B1	0	09-06-2013
Windows バンドル	B2	1	30-04-2013
Linux バンドル	B3	1	18-08-2013

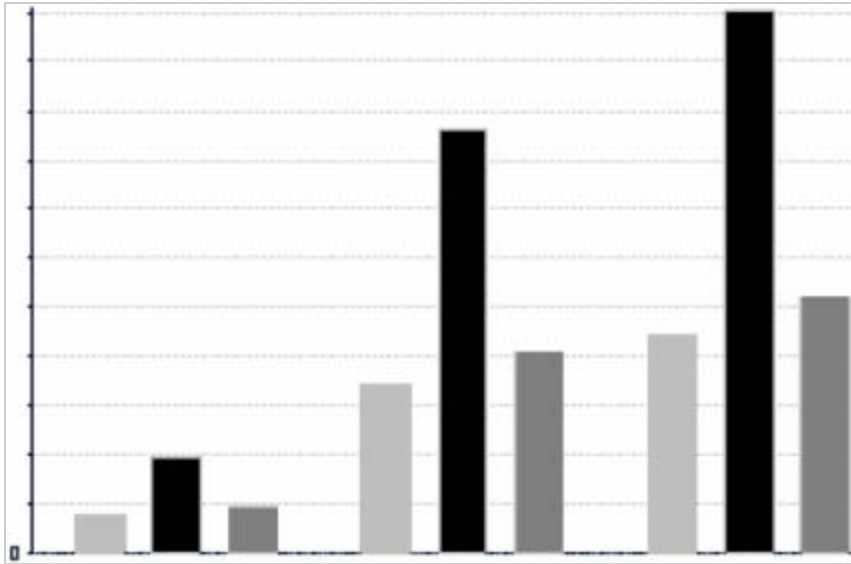
詳細については、34 ページのセクション 2.5 「テーブルの操作」を参照してください。



## グラフ

グラフビューは、関連する項目の複数のセットにわたって1つ以上のメジャーを比較します。グラフはデータをグラフィカルに集計したもので、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフ、円グラフなどのグラフタイプをサポートします。

たとえば、次のテーブルで、**Chart (グラフ)** タブは、各バンドルタイプのバンドル数を比較する棒グラフのデータを示します。



バンドルタイプ

■ パッチバンドル ■ Windows バンドル 02 ■ Linux バンドル

詳細については、[39 ページのセクション 2.6「グラフの操作」](#)を参照してください。

## クロス集計

クロス集計はテーブルよりもコンパクトにデータを表したもので、項目のデータとその計算値を提供します。列と行でグループ化のディメンションを指定します。セルには集計済みの測定値が含まれます。



たとえば、列がバンドルタイプでグループ化された **Crosstab (クロス集計)** の場合、バンドル数は次のようになります。

バンドルタイプ	バンドル数
パッチバンドル	100
Windows バンドル	150
Linux バンドル	50
合計	300

詳細については、[42 ページのセクション 2.7「標準クロス集計の操作」](#)を参照してください。


## 2.2 アドホックビューの作成

アドホックビューは、ドメインまたはトピックに基づくデータのビューです。アドホックビューは、テーブル、グラフ、またはクロス集計にできます。これは、分析操作のエントリーポイントです。

- 1 [作成] > [Ad-Hoc View (アドホックビュー)] の順にクリックします。
- 2 Data Chooser (データセレクトア) パネルで、ドメインを選択します。
- 3  をクリックして、ツリービュー構造を展開し、使用するドメインを選択します。  
適切な権利を持つドメインのみを表示できます。
- 4 Choose Data (データの選択) をクリックします。
- 5 Data Chooser (データセレクトア) パネルで、フィールドをクリックして、アドホックビューで使用する項目を選択します。  
詳細については、[19 ページの「項目の選択」](#)を参照してください。  
[Data Chooser (データセレクトア)] パネルで、必要なオプションを選択します。
  - ◆ **Pre-filters (事前フィルタ)**: アドホックエディタで使用可能なデータを制限するフィルタを作成します。詳細については、[19 ページの「データの事前フィルタ」](#)を参照してください。
  - ◆ **Display (表示)**: **Display Label (表示ラベル)** フィールドのフィールドおよび表示名を変更します。詳細については、[20 ページの「デフォルトのラベル設定の変更」](#)を参照してください。
  - ◆ **Save as Topic (トピックとして保存)**: カスタマイズされたトピックを保存します。詳細については、[20 ページの「設定を保存する」](#)を参照してください。
- 6 アドホックビュー、テーブル、グラフ、またはクロス集計のタイプを選択します。  
詳細については、[24 ページのセクション 2.1.4「アドホックビューのタイプ」](#)を参照してください。
- 7 計算フィールドを作成します。  
パフォーマンスを向上させるには、フィルタを作成するのではなく、アドホックビューに割り当てステータスおよび展開ステータスの計算フィールドを作成することをお勧めします。  
詳細については、[27 ページのセクション 2.2.1「計算フィールドの作成」](#)を参照してください。
- 8 フィールドおよび Measures (メジャー) から必要な項目を選択します。  
詳細については、[34 ページのセクション 2.5.1「テーブルでのフィールドの使用」](#)、[39 ページのセクション 2.6.1「グラフでのフィールドとメジャーの使用」](#)、または [39 ページのセクション 2.6.1「グラフでのフィールドとメジャーの使用」](#)を参照してください。
- 9  にカーソルを合わせて、**Save Ad Hoc View (アドホックビューの保存)** または **Save Ad Hoc View as (名前を付けてアドホックビューを保存)** をクリックします。
- 10 ビューを保存するフォルダを選択します。デフォルトでは、アドホックビューはリポジトリ内に保存されます。
- 11 ビュー名を指定し、**保存**をクリックします。  
既存のアドホックビューを開いて編集することで、新しいアドホックビューを作成することもできます。

## 2.2.1 計算フィールドの作成

計算フィールドを作成するには：

- 1 左側のフィールドパネルで、**計算フィールドの作成**  をクリックします。  
新規計算フィールドが表示されます。
- 2 式に次の構文を使用します。
  - 2a ラベルフィールドおよびメジャーに二重引用符 (")
  - 2b テキストおよびレベルに一重引用符 (')。
- 3 式に引数を表示するを選択します。
- 4 関数リストから必要な関数を選択します。
- 5 検証をクリックして構文を確認します。
- 6 **フィールドの作成** をクリックします。


## 2.3 アドホックレポートの生成

アドホックエディタを使用してビューを探し、それらのビューをレポートとして保存することもできます。このようなレポートは **iReport** で編集できます。また、レポートをスケジュールしたり、ダッシュボードに追加したりできます。

- ◆ [27 ページのセクション 2.3.1「既存のアドホックビューからのアドホックレポートの作成」](#)
- ◆ [28 ページのセクション 2.3.2「アドホックビューの作成とレポートの生成」](#)

### 2.3.1 既存のアドホックビューからのアドホックレポートの作成

レポートとして生成する既存のビューがある場合、次の操作を実行します。

- 1 ビューを保存したフォルダに移動します。
- 2 ビューを選択します。
- 3  にカーソルを合わせ、**Save Ad Hoc View and Create Report (アドホックビューを保存してレポートを作成する)** を選択して、ビューをアドホックビューおよびアドホックレポートとして保存します。
- 4 レポートを保存するフォルダを選択します。
- 5 ビュー名とレポート名を指定し、**保存** をクリックします。  
次の操作が必要な場合、アドホックビューをレポートとして保存します。
  - ◆ インタラクティブなレポートビューアでデータを表示する。
  - ◆ テーブルデータの追加の書式設定を実行する。
  - ◆ データコンテンツをダッシュボードに埋め込む。
- 6 実行するレポートを選択します。  
次の方法を使用して、レポートを表示および選択できます。
  - ◆ ホームページで、**レポートを表示** をクリックする。
  - ◆ **表示** > [リポジトリの順] にクリックする。


- ◆ **表示**] > [検索結果の順にクリックする。
- ◆ **ライブラリ**をクリックする。

リポジトリパネルが表示されます。このパネルで、ファイルの同じセットを異なるビューで参照できます。

- 7 レポート名をクリックするか、レポート名を右クリックして、**実行**をクリックします。  
または

**表示**] > [リポジトリからレポートにアクセスしている場合は、レポート行を選択し、**実行**をクリックします。

### 既存のビューからレポートを生成する別の手順

- 1 ホームページで、**Create Report (レポートの作成)** をクリックします。
- 2 **Create Report (レポートの作成)** パネルで、目的のビューを選択し、**OK** をクリックします。
- 3  にカーソルを合わせ、**保存**または **Save as (名前を付けて保存)** をクリックします。
- 4 レポートを保存するフォルダを選択します。

## 2.3.2 アドホックビューの作成とレポートの生成

- 1 26 ページのセクション 2.2 「アドホックビューの作成」のステップ 1～ステップ 8 を実行し、27 ページのセクション 2.3.1 「既存のアドホックビューからのアドホックレポートの作成」のステップ 3～ステップ 7 を実行します。
- 2 レポート名をクリックするか、レポート名を右クリックして、**実行**をクリックします。  
または  
**表示**] > [リポジトリからレポートにアクセスしている場合は、レポート行を選択し、**実行**をクリックします。

---

注：アドホックビューからレポートを作成した後で、レポートに対してオブジェクトの追加または削除を行うことはできません。

---

### 依存レポート

アドホックビューからレポートを作成した場合、レポートはそのビューに依存します。

アドホックビューを更新しても、その依存レポートは更新されません。たとえば、アドホックビューをエディタで開いて列を追加した場合、その列は同じビューから作成された古いレポートには表示されません。レポートを更新するには、更新されたビューを別のファイル名で保存する必要があります。

## 2.4 レポートのスケジューリング

次の項では、レポートをスケジュールするのに役立つ情報を提供します。

- ◆ 29 ページのセクション 2.4.1 「レポートのスケジューリングと実行」
- ◆ 30 ページのセクション 2.4.2 「出力オプション」
- ◆ 32 ページのセクション 2.4.3 「スケジュールされたジョブのリストの表示」

- ◆ 33 ページのセクション 2.4.4 「[Simple (単純)] およびカレンダーのオプション」
- ◆ 34 ページのセクション 2.4.5 「バックグラウンドでのジョブの実行」

## 2.4.1 レポートのスケジューリングと実行

ジョブの実行日時と実行頻度を設定できます。

- 1 ホームページで、**レポートを表示**をクリックするか、**表示** > [リポジトリの順にクリックします。
- 2 レポート名を右クリックして、**スケジュール**を選択します。
- 3 **Schedule Job (ジョブのスケジュール)** をクリックして、**スケジューラ**パネルを表示します。

- 4 **Job Name (ジョブ名)** フィールドで、ジョブの名前を指定します。たとえば、「Weekly Report」と指定します。説明はオプションです。
- 5 次のスケジュール属性を設定します。
  - ◆ **Start Job (ジョブの開始)**: 次のいずれかを選択します。
    - ◆ **Immediately (即時)**: ジョブを終了したらすぐに開始します。
    - ◆ **On (日付) (特定の日付)**: 将来ジョブを開始します。カレンダー アイコンをクリックし、今後の開始日時を選択します。ジョブの実行時間を設定するには、カレンダーの下にある時間と分をクリックします。
    - ◆ **タイムゾーン**: スケジュールのタイムゾーンを指定します。デフォルトのタイムゾーンはサーバのタイムゾーンで、これはログイン時に入力したタイムゾーンです。タイムゾーンが異なる場合は、それによってこのフィールドを設定します。
    - ◆ **Recurrence (繰り返し)**: 次の設定のいずれかを選択します。
      - ◆ **なし**: レポートを一度実行します。
      - ◆ **Simple (単純)**: 時間、日、または週単位でジョブを繰り返します。

- ◆ **カレンダー** : 週の特定の曜日または月の特定の日にジョブを繰り返します。  
**Simple (単純)** または **カレンダー** を選択すると、追加のフィールドが表示されます。詳細については、[33 ページのセクション 2.4.4 「\[Simple \(単純\)\] およびカレンダーのオプション」](#) を参照してください。

6 [保存] をクリックします。

7 (条件付き) スケジューリングしているレポートに入力コントロールがある場合は、入力を求められます。

保存された値がある場合、**Set the Parameter Values (パラメータ値の設定)** パネルの最上部にあるドロップダウンリストに表示されます。**Use saved values (保存された値の使用)** ドロップダウンで、スケジューリングしているレポートに定義された入力コントロールを設定できます。スケジュールされたレポートの入力値を設定し、**Save Current Values (現在の値を保存)** をクリックして入力値を保存できます。

8 保存された値のセットを選択するか、入力コントロールを設定して、**保存** をクリックします。

9 **Output Settings (出力設定)** パネルで出力オプションを設定します。

詳細については、[30 ページのセクション 2.4.2 「出力オプション」](#) を参照してください。

10 [保存] をクリックします。

**ステップ 2** に示すように、スケジュールされたジョブのリストにジョブが表示されます。

11 **Run Now (今すぐ実行)** をクリックして、バックグラウンドでレポートを実行します。

## 2.4.2 出力オプション

**Output Details (出力の詳細)** パネルで、出力設定を変更できます。最初にジョブ、次に出力オプションを設定する必要があります。

詳細については、[29 ページのセクション 2.4.1 「レポートのスケジューリングと実行」](#) を参照してください。

スケジューラ

### 出力設定

このジョブの出力形式の指定と選択、およびリポジトリの場所の選択を行います。

ジョブの対象: /reports/ZENworks/Predefined\_Reports/ZENworks\_System/Power\_Management/Power\_Comp\_Hardware

設定  
パラメータ  
● 出力

**出力の指定**

基本出力ファイル名  
Power\_Comp\_Hardware

出力の説明:

**出力形式**

PDF  HTML  Excel (ページ分割あり)  CSV  
 DOCX  RTF  ODT  ODS  
 XLSX (ページ分割あり)  Excel  XLSX

タイムゾーン:  
アジア/日本

出力ロケール  
(デフォルト)

電子メール通知

宛先:

ヒント: 複数のアドレスを区切るにはカンマを使用します

件名:

メッセージ:

ファイルの添付  
 空のレポートをスキップ

**出力先の場所**

ファイルは次の場所に追加されます:  
/reports/Scheduled\_Reports

連続ファイル名

タイムスタンプパターン:


ファイルを上書き

Output Details (出力の詳細) パネルでは、次の設定を変更できます。

- ◆ **Base Output File Name (ベース出力ファイル名):** ジョブファイルの名前を指定します。
- ◆ **Output Description (出力の説明):** (オプション) ジョブファイルの説明を指定します。
- ◆ **Output Format (出力フォーマット):** ジョブファイルを保存するフォーマットを選択します。複数のフォーマットを選択した場合、各フォーマットは別のファイルとしてリポジトリに保存され、電子メール通知に別のファイルとして添付されます。
- ◆ **Output Locale (出力ロケール):** レポートを生成するためのロケール設定を選択します。  
レポートはロケールをサポートする必要があります。たとえば、言語バンドルを含むドメインに基づくレポートの場合などです。
- ◆ **To (宛先):** 電子メール通知の電子メールアドレスを指定します。
- ◆ **件名:** 電子メール通知の件名を指定します。
- ◆ **メッセージ:** 電子メール通知のメッセージを指定します。
- ◆ **Attach Files (ファイルの添付):** レポートの出力を電子メール通知とともに送信する場合、このオプションを選択します。

- **Skip Empty Reports (空のレポートをスキップ)**: レポートの実行が失敗したときに、サーバが電子メール通知に空のレポート出力ファイルを添付しないようにします。
- **Output Location (出力の場所)**: レポートを保存するフォルダを参照します。フォルダに対する書き込み許可が必要です。
- **Sequential File Names (順次ファイル名)**: ジョブによって作成されたファイル名にタイムスタンプを追加する場合、このオプションを選択します。これは、繰り返しジョブの出力や、出力に日付を付ける必要がある、時間が重要なレポートに役立ちます。タイムスタンプを使用する場合、ファイル名の出力は、<basename>-<timestamp>.<extension> になります。
- **Timestamp Pattern (タイムスタンプパターン)**: タイムスタンプのオプションのパターン。レポート出力ファイルの有効なパターンで使用できる文字は、文字、数字、ダッシュ、アンダースコア、およびピリオドのみです。デフォルトのパターンは、yyyyMMddHHmm です。たとえば、201307030601 と入力します。
- **Overwrite Files (ファイルの上書き)**: 古い出力ファイルを新しいファイルで上書きする場合、このオプションを選択します。これは、順次ファイル名がない場合や、同一ファイル名になる可能性があるタイムスタンプパターンを指定する場合に役立ちます。

## 2.4.3 スケジュールされたジョブのリストの表示

スケジュールされたジョブは、リポジトリパネルに  アイコン付きで表示されます。ユーザは自分が定義したジョブを表示できます。管理者はすべてのユーザが定義したジョブを表示できます。

- 1 ホームページで、**レポートを表示**をクリックします。
- 2 レポートを右クリックし、**スケジュール**を選択します。  
スケジュールされたジョブのリストが表示されます。

スケジュールされているジョブ: /reports/ZENworks/Predefined_Reports/ZENworks_System/Power_Management/Power_Comp_Hardware						
戻る		スケジュールの作成		今すぐ実行		リストを更新
ジョブ ID	ジョブ名	所有者	状態	前回実行	次回実行	有効
3815	power management	administrator@organization_1	NORMAL		10/14/2015 10:40:00 AM	<input checked="" type="checkbox"/>  

**Scheduled Jobs (スケジュールされたジョブ)** パネルに、ジョブの ID、ジョブを作成した所有者、およびジョブの状態が表示されます。ジョブの状態は次のとおりです。

- **Normal (通常)**: ジョブはスケジュールされています。
- **Running (実行中)**: サーバがレポートを生成しています。
- **Complete (完了)**: サーバはジョブの実行を終了し、出力ファイルをリポジトリに配置しました。
- **エラー**: ジョブをスケジュール中またはトリガ中にスケジューラでエラーが発生しました。ここには、ジョブは正常にトリガされたものの実行中にエラーが発生したケースは含まれません。
- **不明**: スケジューラにおいて、トリガされたジョブでエラーが発生しました。

**Scheduled Jobs (スケジュールされたジョブ)** パネルのオプションは、次のとおりです。

- **編集**: スケジュールされたジョブを編集して、変更を保存できます。
- **削除**: スケジュールされたジョブを削除できます。  
実行中のジョブを削除する要求をサーバが受信した場合、サーバはジョブを完了してから削除します。



**Scheduled Jobs (スケジュールされたジョブ)** パネルから次のタスクを実行できます。


- ◆ 戻るをクリックして、レポートのリストに戻る。
- ◆ **Schedule Job (ジョブのスケジュール)** をクリックして、新しいジョブを定義する。
- ◆ **Run Now (今すぐ実行)** をクリックして、サーバの操作を継続したままバックグラウンドでレポートを実行する。
- ◆ 一覧を更新をクリックして、最新のジョブを表示する。

## 2.4.4 [Simple (単純)] およびカレンダーのオプション

定期的かつ自動的にレポートを実行するには、[Set Up the Job (ジョブのセットアップ)] ページで単純な繰り返しまたはカレンダーの繰り返しを選択します。

- ◆ **Simple (単純)** の繰り返しは、時間、日、または週単位でジョブを定期的に行います。単純な繰り返しを使用している場合、サーバを再起動するとレポートの実行時間が変わる可能性があります。
- ◆ **カレンダーの繰り返し** には、より多くの設定があり、特定の時刻、曜日、月の日、および年の月を設定できます。カレンダーの繰り返しを使用している場合、サーバを再起動してもレポートは同じ時刻に実行されます。


単純な繰り返しオプションは次のとおりです。

- ◆ **Repeat every (繰り返し間隔)**: ジョブの間隔を分、時間、日、または週単位で設定します。
- ◆ **Run Indefinitely (無期限に実行)**: 削除するまでジョブを実行します。
- ◆ **Run a set number of times (設定した回数実行)**: 指定した回数、ジョブを実行します。
- ◆ **Run until a specified date (特定の日付まで実行)**: 特定の日付に達するまでジョブを実行します。 をクリックして、日付を選択します。
- ◆ **Holidays (休日)**: 休日カレンダーで、スケジュールされたレポートを実行しない日のリストを指定します。一度に選択できる休日カレンダーは1つだけです。

カレンダーの繰り返しオプションは次のとおりです。

- ◆ **Months (月)**: レポートが実行される月。
- ◆ **日**: レポートが実行される日。
  - ◆ 毎日
  - ◆ 曜日
  - ◆ **Month Days (月の日)**: 日付または日付範囲をカンマで区切って入力します。たとえば、「1, 15」と入力します。
- ◆ **Times (時刻)**: ジョブが実行される時刻 (時と分)。時間は 24 時間形式を使用します。

複数の時刻 (時または分) および範囲をカンマで区切って入力することもできます。たとえば、分に「0, 15, 30, 45」を指定し、時に「9-17」を指定した場合、レポートは、午前 9 時から午後 5 時 45 分まで 15 分間隔で実行されます。毎時または毎分ジョブを実行するには、アスタリスク (\*) を入力します。

- ◆ **Recur Until ( 繰り返しの終了 )**: カレンダの繰り返しは、指定された日付に達するまで実行されま  
す。 をクリックして、日付を選択します。
- ◆ **Holidays ( 休日 )**: 休日カレンダーで、スケジュールされたレポートを実行しない日のリストを指定  
します。一度に選択できる休日カレンダーは 1 つだけです。

## 2.4.5 バックグラウンドでのジョブの実行

ジョブをバックグラウンドで実行すると、場合によってはサーバのパフォーマンスに影響を及ぼす  
ことなくレポートが生成されます。ジョブが終了したら、レポートを任意の形式に直接エクスポート  
してリポジトリに保存できます。生成されたレポートを電子メールで送信することで、レポート  
を他のユーザと共有できます。

ジョブをバックグラウンドで実行することは、ジョブを即時実行するようスケジューリングするこ  
とと同じです。

- 1 ホームページで、**レポートを表示**をクリックします。
- 2 レポートを右クリックして、**Run in Background (バックグラウンドで実行)** を選択します。  
実行中のレポートに入力コントロールまたはフィルタがある場合は、入力を求めるプロンプト  
が表示されます。
- 3 保存された値のセットを選択するか、一度に 1 つずつフィールドを設定し、**[次へ]** をクリッ  
クします。
- 4 **Setting Output Options (出力オプションの設定)** パネルで、詳細を指定して**送信**をクリックしま  
す。出力オプションについては、[30 ページのセクション 2.4.2 「出力オプション」](#) を参照して  
ください。
- 5 **保存**をクリックします。  
レポートは直ちに実行されます。

## 2.5 テーブルの操作

次の項では、表形式ビューを開いて編集し、フォーマットする方法について説明します。

- ◆ [34 ページのセクション 2.5.1 「テーブルでのフィールドの使用」](#)

### 2.5.1 テーブルでのフィールドの使用

項目を追加して、テーブルにデータを挿入します。使用可能なすべての項目は、アドホックエディ  
タの左側の **Data Source Selection (データソースの選択)** パネルに表示されます。

**Data Source Selection (データソースの選択)** パネルで使用できるパラメータは次のとおりです。

- ◆ **フィールド**: 列またはグループとして、テーブルに追加できます。
- ◆ **Measures (メジャー)**: データの値が含まれる特殊なフィールドです。

---

**注**: ほとんどのメジャーでは表形式ビューでは GUID が表示されますが、メジャーが表示され  
るものもあります。

---

フィールドおよびメジャーから項目を列としてテーブルに追加するには：

- 1 **Data Source Selection (データソースの選択)** パネルで、フィールドまたは **Measure (メジャー)** から必要な項目をクリックして、テーブルに追加します。
- 2 選択した項目を [Layout Band (レイアウトバンド)] の列ボックスにドラッグします。  
選択した項目は、テーブルの列としてビューに追加されます。

テーブルから項目を削除するには：

- ◆ [Layout Band (レイアウトバンド)] で、フィールドまたはメジャーの名前の横にある **x** をクリックします。

## 集計

テーブル内の任意の列の集計データを表示できます。集計データは、次のようなさまざまな形式の関数で表示できます。

- ◆ [合計] :
- ◆ Count (カウント)
- ◆ Distinct Count (個別カウント)
- ◆ [Average]

たとえば、バンドルタイプ別にグループ化されたバンドルサイズのリストを含むテーブルの場合、この関数を使用して、バンドルサイズの最小値、最大値、平均値、または合計数を表示できます。

特定の列に集計を追加するには：

- ◆ テーブルで、集計を計算する列を右クリックして、**Add Summary (集計の追加)** を選択します。  
集計情報はグループヘッダに追加されます。グループがテーブルに含まれていない場合は、列の最下部に追加されます。

特定の列から集計を削除するには：

- ◆ テーブルで、削除する集計を含む列を右クリックして、**Remove Summary (集計の削除)** を選択します。

すべての列から集計を追加または削除するには：

- ◆  をクリックして、**Detailed Data (詳細データ)** を選択します。

## 列およびヘッダのラベル

表形式レポートの場合、アドホックエディタで列またはヘッダのラベルを直接編集できます。

列またはヘッダのラベルを編集するには：

- 1 **Ad-Hoc View (アドホックビュー)** パネルで、列またはグループヘッダを右クリックします。
- 2 **Edit Label (ラベルの編集)** をクリックします。
- 3 テキストボックスで、既存の名前を削除して、新しい名前を指定します。
- 4 **送信** をクリックします。

列またはヘッダのラベルを削除するには：

- 1 アドホックビューで、列またはヘッダを右クリックします。
- 2 **Delete Label (ラベルの削除)** をクリックします。

ラベルを削除しても、アドホックエディタにはそのラベルが依然として表示されますが、レポートには表示されません。

ラベルを再適用するには：


- 1 列またはヘッダを右クリックします。
- 2 **Add Label (ラベルの追加)** をクリックします。
- 3 ラベル名を指定します。
- 4 **送信** をクリックします。

## 列のサイズとスペースの管理


テーブル内の列のサイズを変更すると、スペースをより効率的に使用できるようになります。

列の右端をクリックして、調整する列を選択します。

列のサイズを調整するには

- 1 **Ad-Hoc View (アドホックビュー)** パネルで、サイズを変更する列を選択します。
- 2 列の右端にカーソルを移動します。
- 3 **サイズ変更アイコン** () が表示されたらクリックし、列が目的のサイズに調整されるまでドラッグします。

列間のスペースを変更するには：

- 1 **Measures (メジャー)** の下にある、**Data Source Selection (データソースの選択)** パネルで、**Spacer (スペーサ)** をクリックします。
- 2 **[Layout Band (レイアウトバンド)]** の列ボックスにスペーサをドラッグし、スペースを空ける2つの列の名前の間に配置します。  
 というラベルの付いたスペーサ列がテーブルに表示されます。

スペーサを削除するには、スペーサ列を右クリックして、**Remove from Table (テーブルから削除)** を選択します。

スペーサを使用してテーブルの余白を作成するには：


- 1 **Data Source Selection (データソースの選択)** パネルで、**Spacer (スペーサ)** をクリックします。
- 2 **[Layout Band (レイアウトバンド)]** の列ボックスにスペーサをドラッグします。
- 3 テーブルの右端にスペーサを追加します。

## カラムの並べ替え

- 1 **Ad-Hoc View (アドホックビュー)** パネルで、移動する列を右クリックします。
- 2 **Move Right (右に移動)** または **Move Left (左に移動)** をクリックします。

## テーブルのソート

アドホックエディタでは、任意のフィールドでテーブルの行をソートできます。

- 1 クリックするボタン .  
ソートパネルが表示されます。



- 2 ソート基準にするフィールドを追加するには、**Available Fields (使用可能なフィールド)** パネルで項目をダブルクリックするか、項目を選択して、 をクリックします。
- 3 ソートするには、項目を 1 つ以上選択します。
- 4 ソートパネルの各フィールドを選択して、**Move to top (一番上に移動)**、**Move up (上に移動)**、**Move down (下に移動)**、または **Move to bottom (一番下に移動)** をクリックします。
- 5 **Sort On (ソート基準)** パネルから項目を削除するには、フィールドを選択し、 をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。選択したフィールドでソートされた行がテーブルに表示されます。

次の方法を使用してテーブルをソートすることもできます。

- ◆ **Data Source Selection (データソースの選択)** パネルのフィールドセクションでフィールドを右クリックして、**Use for Sorting (ソートに使用)** をクリックします。この場合、テーブルは、テーブル内がないフィールドでソートされます。タイトルのソートフィールドに注意する必要があります。
- ◆ **Ad-Hoc View (アドホックビュー)** パネルのキャンバスで列ヘッダを右クリックして、**Use for Sorting (ソートに使用)** をクリックします。

---

注: 列がすでに使用されていて、その使用を停止するか、ソートを変更する場合は、列を右クリックして、*Change Sorting* (ソートの変更) をクリックします。

---

## タイトルの追加

- 1 テーブルの上にある **Click to add a title** (クリックしてタイトルを追加) を選択します。
- 2 テキストボックスでタイトルを指定します。


## データフォーマットの変更

日付やバンドルサイズなど、数値データを含む列のフォーマットを変更できます。

- 1 アドホックビューで、データフォーマットを変更する列を右クリックします。
- 2 **Change Data Format** (データフォーマットの変更) をクリックします。
- 3 使用するフォーマットを選択します。  
これらのオプションは、列に含まれる数値データのタイプによって異なります。

## データソースの変更

テーブルに対して新しいデータソースを選択する必要があります。新しいトピックまたはドメインを選択する前に、すべてのビューデータおよびフォーマットが保存されていることを確認してください。別のページに移動すると、ビューに加えた変更はすべて失われます。


- 1 **Data Source Selection** (データソースの選択) パネルの一番上で、 をクリックし、**Change Source** (ソースの変更) を選択します。
- 2 異なるトピックまたはドメインの接続を選択します。
- 3 **Table** (テーブル) をクリックして、新しいデータソースを適用します。

## データセットの制御

グリッド詳細セレクタを使用して、グリッドに表示されるデータを制御できます。グリッド詳細セレクタのオプションは、次のとおりです。

- ◆ **Detailed Data** (詳細データ): テーブル詳細のみが表示されます。
- ◆ **Totals Data** (合計データ): テーブルの合計のみが表示されます。
- ◆ **Details and Totals** (詳細と合計): 個々のテーブルと合計テーブルの両方が表示されます。

表示されたテーブルの詳細を変更するには:

- 1  にカーソルを合わせます。
- 2 テーブルに適用するオプションを選択します。  
要求したデータがアドホックエディタに表示されます。

## 2.6 グラフの操作

アドホックグラフは、柔軟かつインタラクティブな方法でデータをグラフィカルに探すことができます。行および列に対して異なるレベルの集計を選択する、列から行へフィールドを変更する、グラフ全体をピボット表示する、グラフの値を非表示にする、ズームしてグラフの詳細を表示する、などの操作を行えます。

次の項では、アドホックグラフを表示、編集、およびフォーマットする方法について説明します。グラフの操作に関連する多くのタスクは、テーブルおよびクロス集計のタスクと同じです。

- ◆ 39 ページのセクション 2.6.1 「グラフでのフィールドとメジャーの使用」
- ◆ 40 ページのセクション 2.6.2 「グラフタイプの選択」
- ◆ 41 ページのセクション 2.6.3 「グラフの使用」

### 2.6.1 グラフでのフィールドとメジャーの使用

グラフを表示するには、少なくとも 1 つのメジャーを追加する必要があります。グラフにメジャーを追加する前は、アドホックエディタには 1 つのエントリを含むプレースホルダが表示されていません。メジャーを追加すると、グラフの各メジャーの総計が表示されます。

初期画面には、追加したメジャーのみが反映されます。これは項目またはディメンションを追加しても変更されません。たとえば、棒グラフに追加した各メジャーに対して、メジャーの合計値を含む棒が表示されます。これはいくつ項目を追加したかに関係ありません。表示が更新されるまで待つことなく、メジャーおよびフィールドを追加、削除、および調整することができます。目的のフィールドおよびメジャーを表示したら、右側のスライダを使用して、詳細レベルを選択できます。

使用可能なすべてのフィールドは、**Data Selection (データの選択)** パネルに、標準のフィールドまたは **Measures (メジャー)** のいずれかとして表示されます。

- ◆ 標準フィールドは、列または行に追加できます。
- ◆ メジャーには、集計された値が含まれます。これらのフィールドは通常、棒の長さ、円スライス、ポイントの場所 (インライングラフ)、および面の高さを決定する数値フィールドです。これらは行や列に追加できます。ただし、同じターゲット内にある必要があります。列または行としてグラフに 1 つ以上のメジャーを追加できます。ただし、同じグラフ内の列と行に別のメジャーを使用することはできません。

グラフの作成時には、行と列のグループが階層的に配置されている (階層の最上位のメンバーが左側に配置されている) ことを確認します。

行または列にフィールドまたはメジャーを追加するには：

- 1 **Data Selection (データの選択)** パネルで、グループとしてグラフに追加する項目を選択します。
- 2 選択した項目を [Layout Band (レイアウトバンド)] の列または行ボックスにドラッグします。

## メジャーの集計関数の変更

メジャーの集計関数を変更して、データの新しいビューを取得できます。たとえば、合計から平均に変更できます。

メジャーの新しい集計関数を選択するには：

- 1 [Layout Band (レイアウトバンド)] でメジャーを右クリックして、**Change Summary Function (集計関数の変更)** をクリックします。
- 2 **Cascading (カスケード)** サブメニューから関数を選択します。  
新しい集計関数でビューが更新されます。


## 2.6.2 グラフタイプの選択

情報を表すグラフタイプを次に示します。

- ◆ 列
- ◆ Bar (棒)
- ◆ Line (折れ線)
- ◆ Area (面)
- ◆ [Pie]

アドホックエディタでは、デフォルトで縦棒グラフが作成されます。いつでも異なるタイプのグラフを選択できます。









新しいグラフタイプを選択するには：

- 1 **Ad-Hoc View (アドホックビュー)** パネルで、 アイコンをクリックします。
- 2 使用するグラフのタイプを選択します。  
選択したグラフタイプは青いアウトライン付きで表示されます。

次の表は、使用できるグラフタイプを示します。

アイコン	説明
<b>Column charts (縦棒グラフ)</b>	
	<b>縦棒</b> ：グループの複数のメジャーが個々の縦棒として表示されます。
	<b>Stacked Column (積み上げ縦棒)</b> ：グループの複数のメジャーが、そのサイズがグループの集計値を反映する単一の縦棒の一部として表示されます。
	<b>Percent Column (パーセント縦棒)</b> ：グループの複数のメジャーが固定サイズの単一の縦棒の一部として表示されます。
<b>Bar charts (棒グラフ)</b>	
	<b>Bar (棒)</b> ：グループの複数のメジャーが個々の棒として表示されます。
	<b>Stacked Bar (積み上げ横棒)</b> ：グループの複数のメジャーが、そのサイズがグループの集計値を反映する単一の棒の一部として表示されます。



アイコン	説明
	<b>Percent Bar (パーセント棒)</b> : グループの複数のメジャーが固定サイズの単一の棒の一部として表示されます。
<b>Line charts (折れ線グラフ)</b>	
	<b>Line (折れ線)</b> : データポイントを直線で結んで表示します。
	<b>Spline (スプライン)</b> : データポイントを近似曲線で結んで表示します。
<b>Area charts (面グラフ)</b>	
	<b>Area (面)</b> : データポイントを直線で結び、線の下に色を表示します。グループは透明なオーバーレイとして表示されます。
	<b>Stacked Area (積み上げ面)</b> : データポイントを直線で結び、線の下に単色を表示します。グループは塗りつぶし面として表示され、一方が他方の上になるように垂直に配置されます。
	<b>Percent Area (パーセント面)</b> : データポイントを直線で結び、線の下に単色を表示します。グループは固定サイズの面の一部として表示され、一方が他方の上になるように垂直に配置されます。
	<b>Area Spline (面スプライン)</b> : データポイントを近似曲線で結び、線の下に色を表示します。グループは透明なオーバーレイとして表示されます。
<b>Pie charts (円グラフ)</b>	
	<b>Pie (円)</b> : グループの複数のメジャーが円のセクタとして表示されます。

## 2.6.3 グラフの使用

グラフタイプのビューを作成したら、グラフの領域をブラシ操作してズームインしたり、凡例をクリックしてグループのメンバーを非表示にしたりするなど、インタラクティブな機能を使用してデータをさらに詳細に検索することができます。

### ズーム

ズームを使用して、グラフの小さい領域をより詳細に表示することができます。ズームすると、選択した領域に対応するラベルのみが表示されるため、グラフ下部のラベルが読みにくい場合にも便利です。

**注:** ズーム状態をアドホックビューまたはレポートの一部として保存することはできません。アドホックビューを保存したり、アドホックビューからレポートを作成したりした場合、ズームは自動的にリセットされ、グラフ全体が表示されます。

グラフの領域を拡大するには:

- 拡大する領域をクリックして、ドラッグするかブラシ操作を行います。ドラッグまたはブラシ操作を行う際、薄青色の領域は選択した領域を示しています。ビューが選択した領域にズームします。

ズーム後にグラフ全体を表示するには：

- ◆ キャンバスの右上にある **Reset zoom (ズームのリセット)** をクリックします。

## グループメンバーの非表示

グラフの下の凡例を使用して、グループメンバーの非表示または表示を切り替えます。

- 1 グループメンバーを非表示にするには、グラフのメンバー名をクリックします。メンバーがグラフから削除され、凡例は灰色で表示されます。
- 2 非表示にされたグループメンバーを表示するには、メンバーの灰色で表示された凡例をクリックします。

---

**注：**非表示のメンバーをアドホックビューの一部として保存することはできません。アドホックビューを保存したり、アドホックビューからレポートを作成したりした場合、グラフはリセットされ、自動的にすべてのメンバーが表示されます。

---

## 2.7 標準クロス集計の操作

クロス集計には、テーブルやグラフとは異なるデータ、レイアウト、およびフォーマットオプションがあります。

- ◆ [42 ページのセクション 2.7.1 「クロス集計でのフィールドの使用」](#)

### 2.7.1 クロス集計でのフィールドの使用

フィールドを行グループまたは列グループとしてクロス集計に追加できます。メジャーは、クロス集計の行または列に追加できます。ただし、すべてのメジャーを行または列のいずれかとしてクロス集計に含める必要があります。列または行としてクロス集計に1つ以上のメジャーを追加できません。ただし、同じクロス集計内に列および行として異なるメジャーを含めることはできません。

#### クロス集計の行と列

クロス集計ビューの作成時に、行および列グループが階層状に配置されていることを確認します。階層を再配置するには、グループ見出しをドラッグします。見出しを右クリックして、**Move (移動)** オプションを選択するか、矢印キーを押すこともできます。グループを再配置すると、エディタのプレビューデータが変更される場合があります。

クロス集計グループにフィールドまたはメジャーを追加するには：

- 1 **Data Source Selection (データソースの選択)** パネルで、グループとしてクロス集計に追加するフィールドを選択します。
- 2 選択した項目を [Layout Band (レイアウトバンド)] の列または行にドラッグします。

## クロス集計メジャー

メジャーラベルは、その状態に基づいて行または列としてクロス集計に表示されます。

- ◆ 行として含まれるメジャーは、クロス集計では **Measures (メジャー)** 見出しの下に表示されます。
- ◆ 列として含まれるメジャーは、クロス集計では **Measures (メジャー)** 見出しの右側に表示されます。

クロス集計でメジャーを右クリックして、次の操作を実行します。

- ◆ 集計関数の変更
- ◆ データフォーマットの変更
- ◆ クロス集計からの削除
- ◆ フィルタの作成
- ◆ 上へ移動または下へ移動

メジャーはセル内に配置されます。任意の数のメジャーを追加できます。メジャーを再配置するには、メジャーをメジャーラベル領域にドラッグします。

## スライス

スライス機能により、クロス集計内のグループメンバーを保持または除外できます。スライスするには、グループメンバーを右クリックして次を選択します。

- ◆ **Keep Only (以下のみを保持)**: 選択したグループを除くすべてのグループをクロス集計から削除します。
- ◆ **除外**: 選択したグループをクロス集計から削除します。

保持または除外する複数のグループを選択するには、<Ctrl> キーを押しながらクリックするか、<Shift> キーを押しながらクリックします。

---

**注**: 複数の行グループまたは複数の列グループを選択できます。ただし、一度に行グループと列グループの両方でスライスすることはできません。

---

フィルタの操作の詳細については、[45 ページのセクション 2.8「フィルタおよび入力コントロールの使用」](#)を参照してください。

## 集計

すべての行および列グループは自動的に集計されます。

- ◆ グループの集計をオフにするには、グループ内の見出しを右クリックして、**Delete Row Summary ( 行の集計の削除 )** または **Delete Column Summary ( 列の集計の削除 )** を選択します。

集計を再適用するには、見出しを右クリックして、**Add Row Summary ( 行の集計の追加 )** または **Add Column Summary ( 列の集計の追加 )** を選択します。

---

**注**: [Delete Summary ( 集計の削除 )] オプションは、いずれかの軸の一番外側のグループ ( 一番外側の行グループまたは一番外側の列グループのいずれか ) にものみ使用できます。

---

- ◆ メジャーの集計関数およびデータフォーマットを選択するには、メジャーラベルを右クリックして、コンテキストメニューから選択します。パーセント ( 合計のパーセント、列グループの親のパーセント、行グループの親のパーセント ) を計算するカスタム項目の集計関数を変更することはできません。
- ◆ 数値フィールドの集計関数は、Sum、Average、Maximum、Minimum、Distinct Count、および Count All です。Distinct Count は、行または列にある異なる項目の数です。Count All は、項目の合計数です。たとえば、タイプ A のウィジェットが 3 つとタイプ B のウィジェットが 3 つある場合、Distinct Count は 2 で、Count All は 6 になります。

## メンバーの縮小と展開

デフォルトでは、クロス集計の各行と列のグループは、縮小した状態でエディタに表示されます。グループの合計は表示できますが、個々のメンバーのメジャーは表示できません。

グループのメンバーのメジャーを表示するには、グループラベルを右クリックして、**Expand Members (メンバーの展開)** を選択します。

グループのメンバーが展開されている場合は、**Collapse Members (メンバーの縮小)** を選択してメジャーを非表示にします。外側のグループを縮小すると、その内側のグループも縮小されます。**Expand Members (メンバーの展開)** および **Collapse Members (メンバーの縮小)** オプションが利用可能なのは、最も外側のグループ、または展開された外側のグループにネストされた内側のグループのみです。

グループを縮小すると、その集計が自動的に表示されます。これにより、集計が削除されている場合に無効なクロス集計レイアウトが発生し、一部の合計に対して何も表示されない事態を回避します。

## [Sorting]

デフォルトでは、クロス集計の行と列がグループ名のアルファベット順にソートされます。

クロス集計のソートを変更するには：

- 1 クロス集計をソートする見出しを右クリックします。
- 2 コンテキストメニューで、適用するソートオプションを選択します。
  - ◆ **Sort Ascending (昇順でソート)**
  - ◆ **Sort Descending (降順でソート)**

現在適用されているソートオプションの横にあるコンテキストメニューには、青色のドットが表示されます。

クロス集計に複数の行グループまたは列グループが含まれる場合、内側のグループも選択内容に従ってソートされます。ソートに使用できるメジャーは一度に 1 つだけです。別のメジャーのソート順序を変更すると、他はすべてデフォルトにリセットされます。

## サイズ変更とレイアウト

テーブルで手動で設定されている多くのレイアウトおよびフォーマットのオプションは、クロス集計に自動的に設定されます。特に、行および列のサイズは固定されていて、スペーサは使用できません。

## 2.8 フィルタおよび入力コントロールの使用

ドメインは、データを選別するためにさまざまなメカニズムを使用します。

- ◆ ドメイン ( およびドメイントピック ) は、ドメインでフィールドを選択し、比較値を指定することにより、フィルタできます。ユーザがデータを選択できるようにフィルタを設定できます。
- ◆ ドメイン設計内で、条件に基づいたフィルタも定義できます。これらのフィルタは、レポート実行時にレポートビューアに表示されません。

ドメインまたはトピックのどちらからデータを操作しているかに関係なく、アドホックエディタでフィルタを定義できます。このようなフィルタは、ビューがデフォルトで返すデータ量を削減してビューの初期パフォーマンスを向上させる場合に役立ちます。

ユーザがデータセット全体を参照できないようにするために、ドメイン設計で定義された JRXML トピックまたはフィルタで入力コントロールを使用することもできます。詳細については、[51 ページのセクション 2.8.3 「入力コントロールとフィルタを利用できる状況」](#)を参照してください。

入力コントロールおよびフィルタはスムーズに相互作用します。たとえば、入力コントロールを含む JRXML トピックからデータを取得するアドホックビュー内にフィルタを作成できます。

サーバは、フィルタと入力コントロールの両方に照らしてエディタを更新します。入力コントロールとフィルタの組み合わせによってはデータが返されない場合もあるため、空のビューになることがあります。

---

**注:** 結果セットが空の場合、標準フィルタや **Keep Only ( 以下のみを保持 )** フィルタ、間違って定義されたカスタムフィルタ式など、フィルタと入力コントロールの組み合わせが矛盾していないかどうかを確認してください ( データは、該当するフィルタのサブセットの条件だけではなく、複数のフィルタのすべての条件を満たす必要があります )。詳細については、[47 ページの 「カスタムフィルタリング」](#)を参照してください。

---

JRXML は、ZENworks Reporting とそれを使用するアプリケーション ( iReport Designer や ZENworks Reporting など ) 用に作成されたレポートを保存および共有するための XML ファイル形式です。JRXML は、XML 標準を使用してレポートのすべての構造と設定を正確に定義するオープンなフォーマットです。

場合によっては、フィルタが表示パラメータと衝突する可能性があります。この場合、JRXML ファイルを編集して、衝突の原因になっているフィールドの名前を変更する必要があります。

### 2.8.1 フィルタの使用






フィルタは次の場所で定義できます。

- ◆ Data Chooser ( データセクタ ) ( ドメインからビューを作成する場合 )
- ◆ アドホックエディタ ( ビューが JRXML トピックに基づいている場合も含む )

Data Chooser ( データセクタ ) でフィルタを定義する方法については、[19 ページの 「データの事前フィルタ」](#)を参照してください。

さらに、カスタム式を使用すると、どのフィルタをどのようにフィールドに適用するかを制御できます。詳細については、[47 ページの 「カスタムフィルタリング」](#)を参照してください。

アドホックエディタでフィルタを作成するには：

- 1 **Data Source Selection (データソースの選択)** パネルでフィールドを右クリックして、**Create Filter (フィルタの作成)** をクリックします。  
新しいフィルタがフィルタパネルに表示されます。フィルタパネルが非表示の場合は、新しいフィルタを作成すると表示されます。  
結果が空の場合、フィルタと入力コントロールの組み合わせが矛盾していないかどうかを確認します。 をクリックして、入力コントロールをフィルタパネルのフィルタと比較します。
- 2 フィルタのフィールドを使用して値を変更します。  
選択したデータタイプによっては、フィルタは複数選択、単一選択、またはテキスト入力になる可能性があります。
- 3  をクリックして、**Minimize All Filters (すべてのフィルタを最小化)** または **Maximize All Filters (すべてのフィルタを最大化)** を選択すると、フィルタの項目の展開と縮小を切り替えることができます。
- 4  をクリックして、**Remove All Filters (すべてのフィルタを削除)** を選択すると、フィルタを削除できます。
- 5  をクリックすると、フィルタの詳細が非表示になります。
- 6  をクリックすると、フィルタの詳細が表示されます。
- 7 **すべて選択** チェックボックス (フィルタパネルに表示されている場合) をオンにすると、データセットのすべての値が選択されます。  
すべて選択ボックスは、数値および日付のフィルタパネルには表示されません。

---

**注：**すべて選択チェックボックスは、レポート実行時に必ずすべての値が選択されることを保証しません。このチェックボックスは、データセットで現在使用できるすべての値を素早く選択するためのショートカットです。値の編集時またはレポート実行時にすべての値がビューに必ず表示されるようにするには、フィルタを完全に削除します。パネルで、テーブルの列の右クリックコンテキストメニューからフィルタを作成することもできます。[グラフ] タブで、[Data Source Selection (データソースの選択)] パネルのフィールドを右クリックする必要があります。

---

フィルタを変更すると、サーバは新しい値を使用して、表示するデータを決定します。フィルタ内で演算子のみを変更した場合、そのフィルタの値を選択解除してから再度選択して、更新されたフィルタを適用する必要があります。

複数値を持つフィルタの場合、すべての値を再度選択する必要はありません。演算子を変更した後で、<Ctrl> キーを押しながらクリックして値の1つを選択解除し、<Ctrl> キーを押しながらクリックしてその値を再度選択します。

## 相対日付

現在のシステム日付を基準にした相対的な日付範囲に基づいてビューの情報をフィルタできます。早退日付を表示するには、日付ベースのフィルタを使用し、<Keyword>+/-<Number> という形式を使用して、表示する相対日付または日付範囲を記述するテキスト式を指定します。

- ◆ **Keyword** は、使用する期間を示します。オプションとして、DAY、WEEK、QUARTER、SEMI、およびYEARがあります。
- ◆ **+ または -** は、その期間が、選択した日付の前後どちらに発生するかを示します。
- ◆ **Number** は、フィルタに含める期間の数を示します。

相対日付フィルタを作成するには：

- 1 45 ページのセクション 2.8.1 「フィルタの使用」の手順に従います。
- 2 フィルタの最初のテキストボックスで、相対日付または期間の日付を記述する式を指定します。
- 3 フィルタの 2 番目のテキストボックスで、フィルタの基準にする日付を指定します。

複合フィルタを作成するには：

- 1 クロス集計でグループメンバーを右クリックして、**Keep Only ( 以下のみを保持 )** または **Exclude ( 除外 )** を選択します。

内側のグループに対してフィルタを作成した場合、表示されるフィルタは、複合フィルタとして作成されることがあります。

複合フィルタは編集できませんが、削除は可能です。複合フィルタは、Data Chooser ( データセレクト ) ウィザードフィルタが作成されてロックされている場合にも、アドホックエディタに表示されます。

## カスタムフィルタリング

複数のフィルタを作成した場合、各フィルタは、デフォルトで暗黙的な AND 演算子で結合されます。すなわち、テーブル、グラフ、またはクロス集計に表示されているデータは、フィルタがすべて適用された後に残ったデータです。

ただし、カスタムフィルタ機能を使用すると、より複雑なネストされた AND、OR、および NOT 演算子を含むカスタム式を適用すると同時に、1 つのフィールドに複数のフィルタを適用して表示データを制御できます。

---

**注：** カスタムフィルタは OLAP 接続から作成されたアドホックビューでは使用できません。

---

カスタムフィルタは、次のような状況で役立ちます。

- ◆ 「AND 演算子では十分でない場合」。たとえば、多国籍企業がその企業のウォールストリートのオフィスに配置されたライセンス供与されていない Windows OS 製品のデータを確認したいとします。この例では、ユーザは次の列を含むテーブルを持っています。
  - ◆ サイト
  - ◆ OS 製品名
  - ◆ ライセンスタイプ

上記の特定のライセンスデータを分析するために、ユーザは [ライセンスタイプ] フィールド用の 2 つのフィルタを含む次の ( 単純な ) フィルタを作成します。

- ◆ A): サイトが Wall Street と等しい
- ◆ B): OS 製品名に Windows が含まれている
- ◆ C): ライセンスタイプが Unknown と等しい
- ◆ D): ライセンスタイプが Eval と等しい

次に、必要な情報のみを表示するために、次のカスタム式を作成します。

- ◆ A AND ( B AND ( C OR D ) )

これは次のように解釈されます。

- ◆ ( サイトが Wall Street ) AND (( OS 製品名が Windows を含む ) AND (( ライセンスタイプが Unknown ) OR ( ライセンスタイプが Eval )))
- ◆ 「フィールドの一部の結果を削除する必要がある場合」。たとえば、この企業が完全にライセンス供与された Windows OS 製品を除くすべてのデータを確認しようとしていて、ユーザが次の列を含むテーブルを持っているとします。
  - ◆ OS 製品名
  - ◆ ライセンスタイプ

上記の特定のライセンスデータを分析するために、ユーザは次の ( 単純な ) フィルタを作成します。

- ◆ A): OS 製品名に Windows が含まれている
- ◆ B): ライセンスタイプが full と等しい

次に、必要な情報のみを表示するために、次のカスタム式を作成します。

- ◆ A AND ( NOT B )

これは次のように解釈されます。

- ◆ ( OS 製品名が Windows を含む ) AND ( NOT ( ライセンスタイプが Full と等しい ) )

これらは、カスタムフィルタによって結果を補完して、ビューの精度を上げることができるシナリオを2つ挙げただけに過ぎません。高度なフィルタを適用できる状況は、ほかにも数多くあります。

カスタムフィルタの他のタスクには、次のものがあります。

- ◆ カスタム式の作成
- ◆ カスタム式の編集
- ◆ カスタム式の削除
- ◆ 単一フィールドへの複数フィルタの適用

---

**注:** カスタムフィルタはビューに適用されますが、フィルタの詳細は、プレビューやそのビューから生成されたレポートには表示されません。

---

カスタムフィルタを作成して適用するには:

- 1 **45 ページのセクション 2.8.1 「フィルタの使用」** の説明に従って、使用するデータ用のフィルタを2つ以上作成します。標準のフィールドベースのフィルタにすることも、**Keep Only ( 以下のみを保持 )** および **Exclude ( 除外 )** フィルタにすることもできます。

カスタム式で使用するフィルタを作成すると、ビューにデータが表示されなくなります。ほとんどのデータはすべてのフィルタ条件を満たすわけではないためです。カスタム式を作成して、AND の一部を OR および NOT に変更すると、再びデータが表示されるようになります。

- 2 フィルタパネルの最下部で、**カスタムフィルタ式** セクションを展開します。
- 3 テキスト入力ボックスで、文字指定を使用し、次の演算子を含むフィルタ式を入力します。
  - ◆ 「AND」は、結果を絞り込み、演算子の前後にある両方のフィルタ条件を満たすフィールドのみを含めます。
  - ◆ 「OR」は、結果の範囲を広げ、演算子の前後にあるいずれかの条件を満たすフィールドを含めます。
  - ◆ 「NOT」は、条件に一致する結果を除外します。



- ◆ 「丸カッコ」は、複数のフィルタを式内の単一の項目に結合します。

---

**注:** フィルタの文字指定は大文字と小文字を区別します。大文字を使用する必要があります。

---

- 4 [適用] をクリックします。ビューが更新され、新しく適用したフィルタ条件を反映します。

カスタムフィルタを作成した後で、別のフィルタを式に追加したり、既存の式を削除したりできます。

---

**注:** 削除したい単純なフィルタがカスタムフィルタの一部の場合、まずカスタムフィルタ式から該当のフィルタを削除する必要があります。このようにしないでフィルタを削除すると、カスタムフィルタ式が削除されます。

---

新しいフィルタを既存のカスタム式に追加するには：

- 1 フィルタパネルで新しいフィルタを作成します。
- 2 **カスタムフィルタ式**で、テキスト入力ボックス内をクリックし、式を編集します。
- 3 新しいフィルタを式に追加します。
- 4 **適用**をクリックして、新しい条件を適用します。

カスタム式からフィルタを削除するには：



- 1 **カスタムフィルタ式**セクションを展開します。
- 2 テキスト入力ボックスで、不要なフィルタを式から削除し、必要に応じて式を調整します。
- 3 **適用**をクリックして、新しい条件を適用します。

カスタム式を操作する場合、既存の式を削除して、新しい式を作成することができます。



カスタム式をビューから削除するには：

- 1 **カスタムフィルタ式**セクションを展開します。
- 2 テキスト入力ボックスから式をクリアします。
- 3 [適用] をクリックします。式が削除され、残りのフィルタがそのまま残ります。




カスタム式を調整する場合、**フィルタ**パネルから未使用のフィルタを削除できます。

- ◆ カスタムフィルタからフィルタを削除する場合、フィルタのタイトルバーの  にマウスを合わせて、**Remove Filter (フィルタの削除)** をクリックします。
- ◆ カスタム式を含むすべての既存のフィルタを削除する場合、**フィルタ**パネルの  にマウスを合わせて、**Remove All Filters (すべてのフィルタの削除)** をクリックします。


## 2.8.2 入力コントロールの使用

アドホックエディタで、トピックで定義された入力コントロールを、ユーザに表示されるとおりに表示できます。コントロールのデフォルト値をそのまま使用することも、他の値を入力することもできます。アドホックエディタは、ツールバーの  アイコンをアクティブとして表示することにより、ビューに入力コントロールがあることを示します。 アイコンをクリックして、新しい値を選択するか、このビューの新しいデフォルトとして値を保存します。

フィルタを使用してビューに入力コントロールを追加するには：


- 1 フィルタパネルで新しいフィルタを作成するか、既存のフィルタを使用します。
- 2 フィルタで、新しいフィルタの横にある  をクリックし、**Show Operator (演算子の表示)** を選択します。
- 3 ドロップダウンから演算子を選択し、テキストボックスに値を指定します。  
ビューを使用してレポートを実行すると、フィルタが入力コントロールとして表示されます。
- 4  にカーソルを合わせて、**Save Ad Hoc View as (アドホックビューに名前を付けて保存)...** を選択します。
- 5 ビューに名前を付け、場所を選択して、**保存** をクリックします。
- 6 ツールバーで、 をクリックします。  
トピックで定義された入力コントロールだけが表示されます。トピックで入力コントロールが定義されていない場合、ボタンは灰色で表示されます。

ビューの入力コントロールの値を編集するには：

- 1 ツールバーで、 をクリックします。  
トピックで定義されている入力コントロールを一覧表示するウィンドウが表示されます。
- 2 新しい値を選択します。
- 3 入力コントロールのデフォルト値を変更するには、**Set these values as defaults when saving your view (ビューの保存時にこれらの値をデフォルトに設定する)** というラベルの付いたチェックボックスをオンにします。  
ビューを保存すると、選択した値がデフォルト値になります。
- 4 **OK** をクリックします。  
アドホックビューに更新されたデータが表示されます。

## 2.8.3 入力コントロールとフィルタを利用できる状況

入力コントロールとフィルタは、エディタ内、およびレポート実行時に表示されます。

- ◆ ビューの編集時に入力コントロールを表示するか非表示にするかを設定できます。
  - ◆ **Always prompt (常にプロンプトを表示)** に設定されている入力コントロールは、エディタに表示され、レポート実行前に常に表示されます。
  - ◆ **Always prompt (常にプロンプトを表示)** に設定されていない入力コントロールは、エディタで非表示にされ、レポート実行時に表示されます。
- ◆ Data Chooser (データセレクト) ウィザードで作成したフィルタをロックまたはロック解除できます。
  - ◆ ロック解除されたフィルタは、エディタにフィルタ詳細が表示され、レポート実行時にオプションボタンから使用できます。
  - ◆ ロックされたフィルタは、このアイコン  をクリックすると、エディタに入力コントロールが表示されます。ただし、レポート実行時にオプションボタンから使用することはできません。エディタからフィルタを削除し、レポート実行時に、フィルタされていないデータすべてを表示できます。
- ◆ エディタで定義されたフィルタは、常にエディタのフィルタパネルで利用でき、レポート実行時にはオプションボタンから使用できます。

実行するのに長い時間がかかる大きなビューに入力コントロールを設定する場合、ビューを **Always prompt (常にプロンプトを表示)** に設定することを検討してください。レポートを実行する前に、レポートビューアにより入力オプションの入力を求めるプロンプトが表示され、レポートがデフォルトの入力オプションで実行されないようにします。

ロック解除されたフィルタは利用可能になります。入力コントロールまたはフィルタがレポートビューアに表示されない場合、オプションボタンをクリックして表示します。

プロンプトを表示するように入力コントロールを設定するには：

- 1 リポジトリでトピックを検索し、編集をクリックします。
- 2 **Controls & Resources (コントロールとリソース)** パネルの **Input Control (入力コントロール)** オプションで、**Always prompt (常にプロンプトを表示)** をクリックします。

入力コントロールが表示されるかどうかを判断するには：

- 1 リポジトリでトピック (パラメータ化されたレポートトピックなど) を検索し、編集をクリックします。
- 2 **Controls & Resources (コントロールとリソース)** パネルで、入力コントロールの名前をクリックします。
- 3 **Locate Input Control (入力コントロールの検索)** パネルで、次へをクリックします。

**Create Input Control (入力コントロールの作成)** パネルの下部で、**Visible (表示)** チェックボックスをオンにすると、レポートの実行時にレポートに入力コントロールが表示されます。

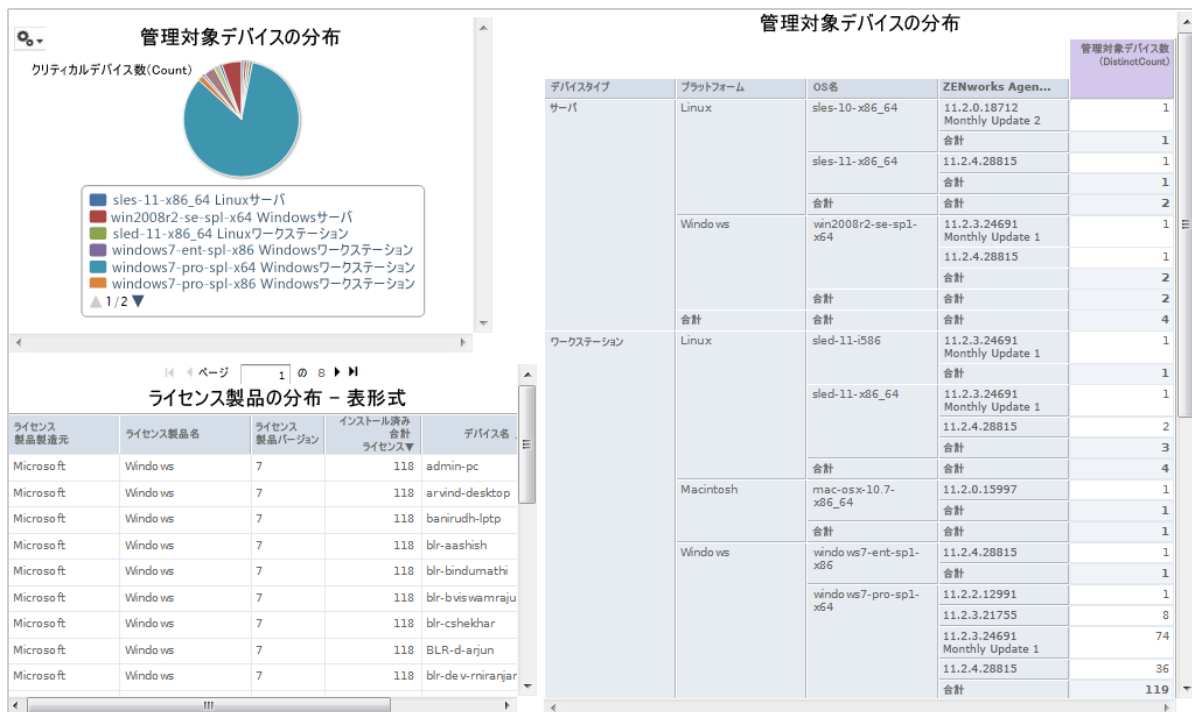
入力コントロールにデフォルト値を指定しない場合、ユーザがトピックに基づくビューを作成するときに、値を選択するようプロンプトが表示されます。

フィルタをロックするには：

- 1 Data Chooser ( データセクタ ) で、フィールドを選択してから、**Pre-filters ( 事前フィルタ )** をクリックします。
- 2 フィールドパネルでフィールドをダブルクリックします。
- 3 フィルタパネルで、フィルタを定義します。  
詳細については、[19 ページの「データの事前フィルタ」](#)を参照してください。
- 4 **Locked ( ロック中 )** チェックボックスをオンにし、**OK** をクリックします。
- 5 **Table ( テーブル )** をクリックして、アドホックエディタを開きます。  
フィルタパネルで、フィルタの名前とロックに関するメモが **Locked ( ロック中 )** という見出しの下に表示されます。

# 3 ZENworks Reporting ダッシュボードの操作

ZENworks Reporting ダッシュボードには、統合された1つのビューにさまざまなレポートが表示されます。事前定義済みレポートまたはアドホックレポートを使用して、ダッシュボードを作成できます。これらのダッシュボードには、他のダッシュボード、1つ以上のフレームに表示されるデータを選択するための入力コントロール、他のコンテンツのURLを指すカスタムフレームを含めることができます。異なるタイプの関連コンテンツをマージすることにより、データが豊富で魅力的なダッシュボードを作成できます。管理者権限がある場合にのみ、ダッシュボードを表示、作成、および編集できます。



- ◆ 53 ページのセクション 3.1「ダッシュボードの作成」
- ◆ 55 ページのセクション 3.2「ダッシュボードの表示と編集」
- ◆ 57 ページのセクション 3.3「ダッシュボードの設計のヒント」

## 3.1 ダッシュボードの作成

- 1 [作成] > [Dashboard (ダッシュボード)] の順にクリックします。




2 使用できるコンテンツペインで目的のフォルダに移動し、レポート名を右クリックして **Add to Dashboard (ダッシュボードに追加)** をクリックします。または、使用できるコンテンツから **Dashboard Viewer (ダッシュボードビューア)** にレポートをドラッグアンドドロップします。

3 レポートを右クリックして、**Size to Content (コンテンツ合わせてサイズを変更する)** をクリックします。

コンテンツがキャンバス領域を超えていてもダッシュボードを保存できます。**Fixed Sizing (固定サイズ)** モードで、コンテンツがキャンバス領域を超える場合、ダッシュボード全体を表示するにはスクロールする必要があります。詳細については、[57 ページのセクション 3.2.3「画面サイズについて」](#)を参照してください。

4 選択した解像度でスクロールせずにダッシュボード全体を表示する：

4a レポートにカーソルを合わせてクリックし、右側のフレームの下端へ移動します。

4b サイズ変更アイコン  が表示されたら、フレームの端をクリックしてドラッグし、必要なビューが表示されるまでサイズを変更します。

カーソル移動をスムーズに行うには、<Ctrl> キーを押しながら、項目およびフレームをドラッグまたはサイズ変更します。

5 レポートを右クリックして、**Show Scroll Bars (スクロールバーを表示)** または **Hide Scroll Bars (スクロールバーを非表示)** をクリックします。

グラフや小さなクロス集計には **Hide Scroll Bars (スクロールバーを非表示)** を使用し、コンテンツに合わせてフレームをサイズ変更します。

6 **Save Dashboard (ダッシュボードの保存)** をクリックするか、**Save Dashboard As (ダッシュボードに名前を付けて保存)** をクリックして、新しいバージョンとして保存します。

7 名前を指定し、許可を持っている目的のフォルダにダッシュボードを保存します。

---


注：ダッシュボードの作成時に、入力コントロールを追加できます。詳細については、[55 ページのセクション 3.2.1「ダッシュボードへのコントロールの追加」](#)を参照してください。

---

## 3.2 ダッシュボードの表示と編集

許可を持っている場合は、ダッシュボードを表示および編集できます。

1 ダッシュボードを表示および選択するには、次の方法のいずれかを使用します。

- ◆ **表示** > [リポジトリの順にクリックする]。
- ◆ **表示** > [検索結果の順にクリックする]。
- ◆ ライブラリをクリックする。
- ◆ ホームページの検索フィールドでダッシュボードを指定して、 をクリックします。

[リポジトリ] ページが表示されます。このパネルで、ファイルの同じセットを異なるビューで参照できます。

2 [リポジトリ] ページで、ダッシュボード名をクリックします。

入力コントロールがあるダッシュボードを表示する場合は、次のことに注意してください。

- ◆ 入力コントロールは、テキストフィールド、ドロップダウンリスト、チェックボックス、複数選択リスト、カレンダーアイコンとして表示される場合があります。
- ◆ ダッシュボードのフレームのいずれかが入力コントロールを参照していない場合、入力コントロールの値を変更してもそのフレームは更新されません。変更が反映されるのは、入力コントロールを参照しているレポートのみです。

ダッシュボードに **Print View (印刷ビュー)** ボタンが含まれる場合、そのボタンをクリックすると、ZENworks Reporting のヘッダとフッタを付けずにダッシュボードを表示できます。Web ブラウザによっては、これはブラウザの印刷ウィンドウ内に表示されます。

3 ダッシュボードを実行するには、ダッシュボードを右クリックして、**実行**をクリックします。

4 ダッシュボードを編集するには、ダッシュボードを右クリックして、**Open in Designer (Designer で開く)** をクリックします。

5 ウィンドウを追加、削除、またはサイズ変更して、ダッシュボードを編集します。

6 **保存**をクリックします。

7 ダッシュボードの新しいバージョンを作成するには、**Save As (名前を付けて保存)** を選択して、新しい名前を指定します。

ダッシュボードに関する追加情報については、次の項を参照してください。

- ◆ [55 ページのセクション 3.2.1 「ダッシュボードへのコントロールの追加」](#)
- ◆ [56 ページのセクション 3.2.2 「ダッシュボードへのカスタム URL の追加」](#)
- ◆ [57 ページのセクション 3.2.3 「画面サイズについて」](#)

### 3.2.1 ダッシュボードへのコントロールの追加

入力コントロールを持つレポートをダッシュボードに追加した場合、コントロールを明示的に追加しない限り、コントロールはダッシュボードに表示されません。ダッシュボードの作成または編集時にコントロールを追加できます。

1 ダッシュボードデザイナーで、**使用できるコンテンツ** > [Special Content (特別なコンテンツ)] > [Single Report Controls (単一のレポートコントロール)] の順にクリックするか、**使用できるコンテンツ** > [Special Content (特別なコンテンツ)] > [Multiple Report Controls (複数のレポートコントロール)] の順にクリックします。

2 値を右クリックして、**Add to Dashboard (ダッシュボードに追加)** をクリックします。

指定した値の入力コントロールがキャンバスに表示されます。

レポートの上以外の場所に入力コントロールを配置する場合は、**使用できるコンテンツリスト**から目的の場所にドラッグします。各入力コントロールまたはそのラベルは、個別に削除、再配置、およびサイズ変更できます。

- 3 入力コントロールから新しい値を選択します。  
対応するレポートに表示されるデータが変更されます。
- 4 使用できるコンテンツリストで、**Special Content (特別なコンテンツ)** > **[Dashboard Controls (ダッシュボードコントロール)]** をクリックして、キャンバスの入力コントロールの下に送信および **Reset (リセット)** ボタンをドラッグします。  
デフォルトでは、入力コントロールの値を変更すると、ダッシュボードは自動的に更新されます。ダッシュボードに送信ボタンが含まれる場合は、送信ボタンをクリックするまでサーバはダッシュボードを更新しません。
- 5 保存をクリックします。

## 3.2.2 ダッシュボードへのカスタム URL の追加

URL アドレス可能なコンテンツを表示するフレームを作成できます。デフォルトで、サーバはカスタム URL フレームに HTTP プロトコルを使用します。ただし、URL の値の最初に file:// を指定して、FILE プロトコルを使用することもできます。この場合、サーバは FILE プロトコルを使用して、指定したファイルをサーバの WEB-INF ディレクトリで検索します。これは、イメージを組み込むのに役立ちます。

- 1 使用できるコンテンツリストで、**Special Content (特別なコンテンツ)** > **[Custom URL (カスタム URL)]** の順にクリックします。  
[Custom URL (カスタム URL)] パネルが表示されます。
- 2 **Enter the URL for the frame, including any fixed parameters (固定パラメータを含む、フレームの URL を入力する)** テキストボックスで Web ページの URL を指定します。たとえば、「www.novell.com」と指定します。
- 3 指定された URL で入力コントロールをマッピングする場合は、**Input Control (入力コントロール)** の下のチェックボックスをオンにします。  
**URL Parameter Name (URL パラメータ名)** フィールドで、デフォルトのテキストを必要なパラメータで置き換えます。この **URL Parameter Name (URL パラメータ名)** フィールドでは大文字と小文字が区別されます。  
**Custom URL (カスタム URL)** ダイアログボックスでは、iframe HTML タグを使用して、ドキュメントを格納できるインラインフレームを定義します。**Custom URL (カスタム URL)** オプションの使用時に問題が発生する場合、ブラウザのセキュリティ設定で iframe のサポートが無効になっているか、またはターゲットの Web サイトで iframe HTML タグを使用して Web ページにアクセスすることが許可されていないことが原因と考えられます。これらを確認してください。
- 4 **OK** をクリックします。
- 5 入力コントロールから新しい値を選択して、**送信** をクリックします。  
サーバは指定された URL (www.novell.com) に入力コントロール値を渡し、関連する詳細を表示します。
- 6 最初の記事の概要のみが表示されるように、カスタム URL フレームのサイズを変更します。
- 7 カスタム URL フレームをクリックして、**Auto-refresh Interval (自動更新間隔)** をクリックし、更新間隔を設定します。



デフォルトでは、フレームは **Manual Only (手動のみ)** に設定されています。

8 保存をクリックします。

### 3.2.3 画面サイズについて

ダッシュボードを作成する際、キャンバスのサイズが特定の画面解像度に一致するように設定できます。

デフォルトでは、ダッシュボードデザイナーは5つの標準の画面解像度をサポートしています。これらは、**オプション > Guide (ガイド)** の順にクリックすると参照できます。ダッシュボードで固定サイズを使用している場合、そのフレームはウィンドウサイズが変更されても自動的にサイズ変更されません。

固定画面解像度のほか、ダッシュボードは比例サイズもサポートしています。ダッシュボードで比例サイズを使用している場合、そのフレームはブラウザウィンドウのサイズを基準に相対的にサイズ変更されます。

---

**注:** ベストプラクティスとして、ダッシュボードの設計時には固定サイズモードを使用し、保存する前に比例サイズに切り替えます。フリーテキスト項目を小さいサイズに変更することはできますが、大きいサイズに変更することはできません。

---

## 3.3 ダッシュボードの設計のヒント

グラフおよび小さなクロス集計はダッシュボードに最適です。ただし、ダッシュボードで適切に機能するテーブルレポートを設計できます。このようなレポートは小さくなりがちであるため、通常は入力コントロールとともに使用して、返される行数を制限します。

- ◆ [57 ページのセクション 3.3.1 「入力コントロールのヒント」](#)
- ◆ [58 ページのセクション 3.3.2 「追加のヒント」](#)

### 3.3.1 入力コントロールのヒント

ダッシュボードの入力コントロールを設計する場合、次のヒントに従ってください。

- ◆ ダッシュボードに単一の入力コントロールを設定して複数のレポートに表示されるデータを制御したい場合は、これらのレポートのパラメータが入力コントロールと同じ名前を持つようにします。
- ◆ レポートでパラメータを定義する場合、他のレポートで再使用できる有効な名前を指定します。その後、同じパラメータを持つ2つのレポートをダッシュボードに追加すると、入力コントロールは、**使用できるコンテンツリストの Special Content (特別なコンテンツ)** として表示されます。このような入力コントロールをリポジトリに保存しておくと、他のレポートを設計してリポジトリに追加した際に、入力コントロールを再利用できます。
- ◆ 外部 URL に値を渡すには、入力コントロールに指定する **URL Parameter Name (URL パラメータ名)** が、その URL で受け入れることができるパラメータの名前に一致している必要があります。入力コントロールの値が、URL が受け入れることができる値である必要もあります。多くの場合、ターゲット URL には他の要件や制限があります。

---

**注:** 入力コントロールは、URL が受け入れることができるデータを渡す必要があります。そうしないと、サーバは外部 URL から正しいデータを取得することができない場合があります。

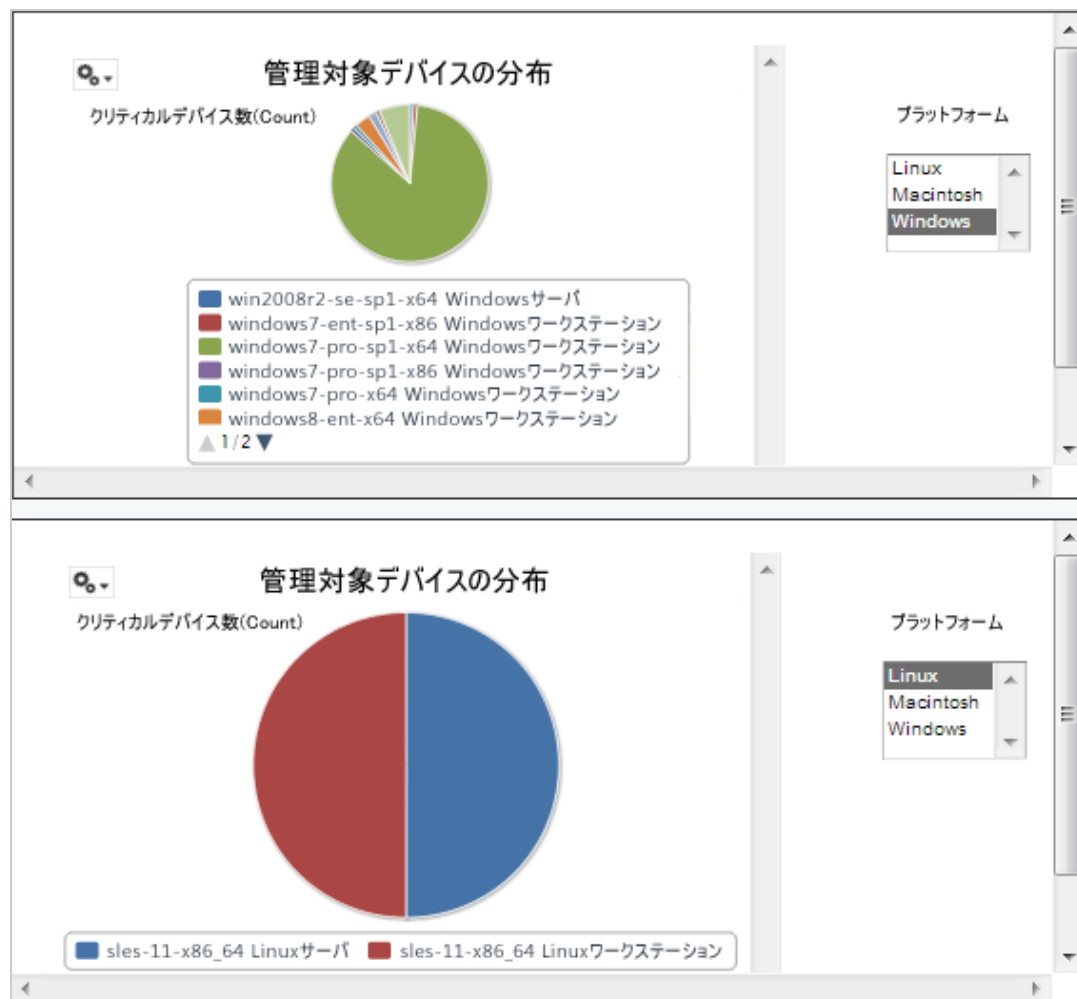
---

## 3.3.2 追加のヒント

ダッシュボードを作成または編集する場合、次のヒントに従ってください。

- ◆ 項目の配置：
  - ◆ 矢印キーを使用して、選択したコンテンツを一度に1グリッドスペースずつ移動できます。
  - ◆ 選択したコンテンツを一度に1ピクセルずつ移動するには、<Ctrl> キーを押しながら移動します。
- ◆ 項目の選択：
  - ◆ コンテキストメニューの項目は、選択内容に応じて変わります。たとえば、ボタンを選択したか、フレームを選択したかに応じて、コンテキストメニューには **Delete Item (項目の削除)** オプションまたは **Delete Frame (フレームの削除)** オプションが含まれる場合があります。
  - ◆ 複数の項目またはフレームを選択した場合、コンテキストメニューには、選択した項目すべてに適用されるオプションのみが含まれます。たとえば、フレームおよびボタンを選択した場合、コンテキストメニューには、**Delete Items (項目の削除)** オプションのみが含まれます。
  - ◆ 複数のフレームを選択した場合、コンテキストメニューには、**Hide All Scroll Bars (すべてのスクロールバーを非表示)** や **Delete Items (項目の削除)** など、グループとしてフレームに適用できるオプションが含まれます。
  - ◆ 複数のフレームを選択して、一度にすべてのサイズを変更できます。1つのフレームの端をドラッグすると、他のフレームも同様にサイズ変更されます。
- ◆ ダッシュボードのレポートの再配置または削除：
  - ◆ 入力コントロールが含まれるレポートをダッシュボードから削除すると、コントロールも削除されますが、ラベルはそのまま残ります。ラベルは手動で削除します。
  - ◆ 削除された入力コントロールにカスタム URL フレームがマッピングされている場合、サーバはデフォルトの URL を示しますが、パラメータを渡しません。
  - ◆ 意図せず削除されるのを避けるため、ダッシュボードで使用されているレポートを追跡します。レポートをリポジトリから削除した場合、または新しい場所に移動した場合、そのレポートはダッシュボードから削除されます。
- ◆ ダッシュボードの埋め込み：
  - ◆ 循環依存関係が生じる場合を除き、ダッシュボードに他のダッシュボードを含めることができます。ダッシュボードをそのダッシュボード自体に追加しようとしないでください。
  - ◆ 1つのダッシュボード内にある、同じ入力コントロールを参照する複数のレポートは、その1つの入力コントロールによって制御されます。ユーザが各レポートに対して個別に入力コントロールを設定できるようにする場合は、それぞれが入力コントロールを参照する2つのダッシュボードを作成します。その後、他の2つを含む3番目のダッシュボードを作成します。
  - ◆ [59 ページの図 3-1](#) に示すように、同じダッシュボードを1つの親に2回追加すると、説得力のある比較を作成できます。  
下に示すダッシュボードでは、同じダッシュボードを2つの異なる入力コントロールとともに使用しています。1つは Windows プラットフォーム、他方は Linux プラットフォームです。この例では、異なるバージョンの Windows および Linux オペレーティングシステムを使用するデバイス数が示されています。

図 3-1 説得力のある比較ダッシュボード





# 4 ZENworks Reporting の管理

ZENworks Reporting では、ユーザの管理は、ZENworks Reporting のインストール中に設定される LDAP サーバ経由でのみ行います。デフォルトでは、LDAP サーバに存在するユーザはすべて ZENworks Reporting にログインできます。LDAP サーバでは、ユーザをグループで管理し、ZENworks Reporting で利用可能な役割ベースのユーザ管理機能を活用することをお勧めします。

ユーザが初めて ZENworks Reporting にログインすると、次の処理が行われます。

- ◆ ZENworks Reporting リポジトリ内にユーザが作成される。
- ◆ LDAP グループに基づいて役割が作成される。
- ◆ 新しく作成された役割にユーザが割り当てられる。

同じ LDAP グループに属する後続のユーザについては、そのユーザが初めてログインした際に、ZENworks Reporting 内にユーザが作成され、ZENworks Reporting で作成済みの役割に割り当てられます。

ZENworks Reporting では、ユーザは 2 つのカテゴリ ( 管理者および非管理者 ) に分類されます。**Configure User Source ( ユーザソースの設定 )** ウィザードでインストール時に選択したグループは、ROLE\_ADMINISTRATOR にマッピングされます。他のすべてのユーザについては、属する LDAP グループに基づいて役割が作成されます。たとえば、「user1」が LDAP グループ「group1」に属するユーザである場合、「ROLE\_group1」という名前の役割が作成され、user1 はその役割に割り当てられます。

管理者は ZENworks Reporting を管理します。初期状態で ZENworks Reporting へのアクセス許可を持っているのは、管理者のみです。管理者は、役割レベルまたはユーザレベルのいずれかで、他のユーザにアクセス許可を提供します。

許可の詳細については、[63 ページのセクション 4.3.1 「許可」](#) を参照してください。

---

**注:** 管理メニューを表示したり、このメニューにアクセスしたりできるのは、管理者のみです。

---

非管理者は、データの分析、レポートの作成、およびレポートのスケジューリングを行うことができます。

- ◆ [62 ページのセクション 4.1 「ユーザの管理」](#)
- ◆ [62 ページのセクション 4.2 「役割の管理」](#)
- ◆ [63 ページのセクション 4.3 「リソースの管理」](#)
- ◆ [68 ページのセクション 4.4 「ZENworks Reporting 設定の管理」](#)

## 4.1 ユーザの管理

ユーザの管理は LDAP サーバ経由でのみ行います。

ユーザプロパティを表示するには：

- 1 **管理**] > [ユーザの順にクリックするか、ホームページで **Manage Server (サーバの管理)**] > [ユーザの順にクリックします。

管理者はすべてのユーザを表示できます。

- 2 ユーザを探すには、特定のユーザを検索し、**ユーザパネルの検索フィールド**で検索文字列を指定します。検索結果にすべてのユーザが表示されます。
- 3 [ユーザ] パネルでユーザを選択します。[プロパティ] パネルにユーザのプロパティが表示されます。

プロパティには、ユーザ名、ユーザ ID、電子メールアドレス、割り当てられた役割、およびプロフィールの各属性が含まれます。役割名は各役割の役割管理にリンクされます。

ユーザを削除するには：

- 1 **ユーザ**パネルでユーザを選択します。ユーザのリストが長すぎる場合は、検索文字列を指定してユーザを検索してから、該当ユーザを選択します。
- 2 **削除**をクリックします。

## 4.2 役割の管理

役割は、同じ許可を持つユーザのセットを定義します。管理者がユーザを役割に割り当てることはできません。これは LDAP サーバでのみ行われます。LDAP サーバ経由でマッピングされた役割をいくつでも使用できます。

表 4-1 ZENworks Reporting の役割

役割	説明
ROLE_ADMINISTRATOR	ZENworks Reporting は、すべての新しい組織の管理者ユーザに自動的にこの役割を割り当てます。これは、すべての組織で表示され、組織の管理者が他のユーザに割り当てることができるシステムレベルの特別な役割です。
ROLE_USER	ZENworks Reporting にログインするすべてのユーザは、この役割が必要です。

役割のプロパティを表示するには：

- 1 **管理**] > [役割をクリックするか、ホームページで **Manage Server (サーバの管理)**] > [役割の順にクリックします。

- 2 **役割**パネルで、役割をクリックします。

特定の役割を検索するには、**役割パネルの検索フィールド**に検索文字列を指定します。検索結果に、検索文字列に一致する名前を持つ役割が表示されます。

- 3 **役割**パネルで役割を選択します。役割のプロパティが**プロパティ**パネルに表示されます。

**プロパティ**パネルには、役割名、およびその役割が割り当てられているユーザのリストが表示されます。ユーザのリストに表示されるのはユーザ ID のみですが、マウスを ID に合わせると、フルネームと組織が表示されます。

役割を削除するには、以下の手順を実行します。

- 1 [役割] パネルで、役割を選択します。
- 2 [削除] をクリックします。

---

注：管理者は ZENworks Reporting では役割を削除できますが、LDAP サーバから削除することはできません。

---

## 4.3 リソースの管理

ZENworks Reporting でリソースを管理できます。

- ◆ [63 ページのセクション 4.3.1 「許可」](#)
- ◆ [65 ページのセクション 4.3.2 「レポートの読み込み専用許可の設定」](#)
- ◆ [66 ページのセクション 4.3.3 「許可の割り当てによるアドホックビューの作成」](#)
- ◆ [67 ページのセクション 4.3.4 「事前定義されたレポートへの実行許可の割り当て」](#)
- ◆ [67 ページのセクション 4.3.5 「フォルダの作成」](#)
- ◆ [67 ページのセクション 4.3.6 「フォルダの移動」](#)

### 4.3.1 許可

フォルダおよびリソースの許可により、ユーザが参照できるリポジトリ内の項目と、ユーザが実行できるアクションが決まります。次の表では、一連の許可が定義されています。

許可	リポジトリフォルダおよびリソースで許可されるアクション
No Access (アクセス不可)	<p>ユーザは、フォルダまたはリソースを表示したり、これらにアクセスしたりできません。</p> <p>すべての非管理者ユーザの場合、ルートのデフォルト許可は「No Access (アクセス不可)」で、許可はすべて明示的に定義する必要があります。</p>
Execute Only (実行専用)	<p>ユーザはリポジトリ内のフォルダまたはリソースを表示することはできませんが、ユーザ自身が実行するレポートまたはダッシュボードにはアクセスできます。</p>
読み込み専用	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ フォルダまたはリソースを表示する。</li><li>◆ フォルダまたはリソースのプロパティを表示する。</li><li>◆ フォルダおよびその読み込み可能なコンテンツのすべてをコピーする。</li><li>◆ リソースをコピーする。</li><li>◆ レポートまたはダッシュボードを表示 (実行) する。</li><li>◆ レポートをバックグラウンドで実行する。</li><li>◆ 後で実行するようにレポートをスケジュールする。</li></ul>
読み込み + 削除	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ フォルダおよびそのコンテンツすべてを切り取り、移動、または削除する。</li><li>◆ リソースを切り取り、移動、または削除する。</li></ul>

許可	リポジトリフォルダおよびリソースで許可されるアクション
読み込み + 書き込み + 削除	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ サブフォルダを追加する。</li> <li>◆ コピーするか切り取ってフォルダに貼り付ける。</li> <li>◆ 新しいアドホックビュー、レポート、またはダッシュボードをフォルダに保存する。</li> <li>◆ スケジュールされたレポートの出力をフォルダに保存する。</li> <li>◆ フォルダまたはリソースの名前を変更して、その説明文字列を変更する。</li> <li>◆ アドホックエディタでアドホックビューを開くか、デザイナーでダッシュボードを開く。</li> <li>◆ 既存のアドホックビュー、レポート、またはダッシュボードを変更および上書きする。</li> <li>◆ ZENworks Report リソースをリポジトリに追加する (JRXML をアップロードする)。</li> <li>◆ リポジトリ内のZENworks Reportリソースの定義を編集する (JRXMを置き換える)。</li> </ul>
管理	フォルダまたはリソースに (役割別およびユーザ別に) 許可を設定します。これにより、特定のリポジトリ管理タスクを効果的に委任します。

許可は、リポジトリを参照または検索するときに適用されます。また、フォルダを参照してレポートを保存するときなど、リポジトリにアクセスするダイアログを使用するときにも適用されます。次のことに注意してください。

- ◆ コピー時にオブジェクトの許可を保持することはできません。ユーザは、読み込み専用オブジェクトをコピーして、読み込み / 書き込みフォルダに貼り付けて、オブジェクトを編集できます。
- ◆ アクションのコピーと切り取り (移動) は、ユーザがオブジェクトの貼り付け先フォルダへの読み込み + 書き込み + 削除アクセス権を持っている場合にのみ実行できます。詳細については、[67 ページのセクション 4.3.6 「フォルダの移動」](#)を参照してください。
- ◆ フォルダの切り取り、削除、および許可の設定は、ユーザがフォルダのすべてのコンテンツに対して同じ許可を持っている場合にのみ許可されます。リソースの一括切り取りおよび削除は、ユーザが、選択したすべてのリソースに対して少なくとも読み込み + 削除許可を持っている場合にのみ許可されます。
- ◆ リソースまたはフォルダのコンテンツの削除は、他のリソースがそれらに依存していない場合にのみ許可されます。

## 許可の設定

管理者は、リポジトリ全体の任意のフォルダまたはリソースにアクセスするための許可をユーザに割り当てます。フォルダの管理許可を持つユーザは、そのフォルダに対する許可と、その許可を継承するコンテンツに対する許可を割り当てることができます。リソースの管理許可を持つユーザは、その特定のリソースに対する許可のみを設定できます。

- 1 管理者特権を持つユーザとして ZENworks Reporting にログインします。
- 2 リポジトリで、フォルダまたはリソースを参照または検索します。
- 3 オブジェクトを右クリックして、**許可 ...** を選択します。

[許可] パネルに、選択したオブジェクトの許可が表示されます。デフォルトでは、役割に付与されている許可が表示されます。オブジェクトの親から継承された許可は、アスタリスク (\*) で示されます。



- 4 [許可] パネルで、**ユーザ**をクリックして、特定のユーザに割り当てられている許可を表示します。ユーザ許可を表示中に**役割**をクリックすると、表示が元に戻ります。
- 5 各ユーザまたは役割に対して、ドロップダウンから新しい許可を選択できます。  
このフォルダに対するデフォルトのユーザ許可を示します。
- 6 **適用**をクリックして変更内容を保存します。ユーザ許可と役割許可を切り替える場合は、まず**適用**をクリックして、変更内容を保存する必要があります。
- 7 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

異なるリソースまたはフォルダに対する複数の許可ダイアログを同時に開いたり、リポジトリを操作したりすることができます。これは、複数のフォルダまたは組織に一樣に許可を設定する場合に役立ちます。

---

注：許可を設定する際には、次の2つの特別なケースがあります。

- ◆ リソースが許可（読み込み専用など）を継承する場合、許可を同じ値に設定することはできません。少なくとも直接設定することはできません。親フォルダの許可レベルを一時的に変更して明示的に許可を設定してから、親フォルダの許可を元の値に設定し直す必要があります。

この方法でリソースとその親フォルダを同じ許可に設定すると、その許可には、許可が継承されている場合と同様にアスタリスクが表示されます。ただし、後から親に別の許可（読み込み専用など）を付与した場合、リソースは、読み込み / 書き込みを継承するのではなく、その明示的な読み込み専用許可を保持します。

- ◆ その親フォルダから継承するように許可レベルをリセットするには、異なる許可レベルを選択して、**適用**をクリックし、アスタリスクの付いた許可を選択して**適用**をクリックします。
- 

## 4.3.2 レポートの読み込み専用許可の設定

- 1 組織フォルダの直下にレポートまたはアドホックビューがないことを確認します。フォルダ構造の下位に許可を付与するために、読み込み専用許可を組織フォルダに与えます。このフォルダにあるすべてのファイルが許可を与えられたユーザに表示されますアクセスできないレポートまたはビューがある場合、エラーメッセージが表示されます。ユーザがエラーメッセージをキャンセルすると、該当のレポートを実行できるようになります。
- 2 使用する許可を与えるレポートの**レポート**の下にフォルダを作成します。
- 3 レポートおよび関連するアドホックビューをこのフォルダに移動します。
- 4 次の手順を使用して許可を割り当て、ユーザアクセスをテストします。  
許可をユーザまたは役割に割り当てることができます（役割はユーザソースのグループです）。

### 許可の設定

- 1 リポジトリを表示し、フォルダリストを開きます。
- 2 **組織**を右クリックし、**許可**を選択します。
  - 2a 許可を必要とするユーザ / 役割を検索します。
  - 2b 許可を**読み込み専用**に設定します。
  - 2c **適用**をクリックして、**OK** をクリックします。

- 3 データソースを右クリックし、許可を選択します。
  - 3a 許可を必要とするユーザ / 役割を検索します。
  - 3b 許可を実行のみに設定します。
  - 3c 適用をクリックして、OK をクリックします。
- 4 ドメインを右クリックし、許可を選択します。
  - 4a 許可を必要とするユーザ / 役割を検索します。
  - 4b 許可を読み込み専用を設定します。
  - 4c 適用をクリックして、OK をクリックします。
- 5 一時を右クリックし、許可を選択します。
  - 5a 許可を必要とするユーザ / 役割を検索します。
  - 5b 許可を読み書き設定します。
  - 5c 適用をクリックして、OK をクリックします。
- 6 (レポートがパブリックの下にある場合には任意)パブリックを右クリックし、許可を選択します。
  - 6a 許可を必要とするユーザ / 役割を検索します。
  - 6b 許可を読み込み専用を設定します。
  - 6c 適用をクリックして、OK をクリックします。
- 7 レポートを含むフォルダを右クリックし、許可を選択します。
  - 7a 許可を必要とするユーザ / 役割を検索します。
  - 7b 許可を読み書き設定します。
  - 7c 適用をクリックして、OK をクリックします。
- 8 ユーザがアドホックビューを削除できないようにするには、次の手順を実行します。フォルダのアドホックビューを右クリックし、許可を選択します。
  - 8a 許可を必要とするユーザ / 役割を検索します。
  - 8b 許可を実行のみに設定します。
  - 8c 適用をクリックして、OK をクリックします。
- 9 レポートをテストします。
  - 9a [Manage User (ユーザの管理)] をクリックします。
  - 9b ユーザをクリックし、右下のユーザとしてログインを選択します。
  - 9c ライブラリをクリックし、レポートをクリックします。

### 4.3.3 許可の割り当てによるアドホックビューの作成

アドホックビューを作成する許可を任意の役割またはユーザに割り当てることができます。

- 1 ユーザ (非管理者) として ZENworks Reporting にログインします。  
ユーザまたは役割が許可に対して使用できるようになります。
- 2 ZENworks Reporting からログアウトします。
- 3 管理者ユーザとして ZENworks Reporting にログインします。
- 4 表示] > [リポジトリの順にクリックします。
- 5 フォルダパネルで、組織フォルダを右クリックして、許可をクリックします。

- 6 許可パネルで、役割またはユーザに対して読み込み専用を選択し、OK をクリックします。
- 7 フォルダパネル > 組織の順にクリックし、データソースを右クリックして、許可をクリックします。
- 8 許可パネルで、役割またはユーザに対して Execute Only (実行専用) を選択し、OK をクリックします。
- 9 フォルダパネル > 組織の順にクリックし、ドメインを右クリックして、許可をクリックします。
- 10 許可パネルで、役割またはユーザに対して読み込み専用を選択し、OK をクリックします。
- 11 フォルダパネル > 組織の順にクリックし、レポートを右クリックして、許可をクリックします。
- 12 許可パネルで、役割またはユーザに対して読み込み専用を選択し、OK をクリックします。
- 13 フォルダパネル > 組織] > [レポートの順にクリックし、フォルダを作成して、Read+Write+Delete (読み込み + 書き込み + 削除) 許可を role\_user に提供します。詳細については、67 ページのセクション 4.3.5 「フォルダの作成」を参照してください。
- 14 フォルダパネル > 組織の順にクリックし、Temp (一時) を右クリックして、許可をクリックします。
- 15 許可パネルで、役割またはユーザに対して Read+Write (読み込み + 書き込み) を選択し、OK をクリックします。

#### 4.3.4 事前定義されたレポートへの実行許可の割り当て

66 ページのセクション 4.3.3 「許可の割り当てによるアドホックビューの作成」の説明に従って、ステップ 1 からステップ 12 を実行します。

#### 4.3.5 フォルダの作成

フォルダおよびリソースに対する書き込み許可がある場合は、フォルダを作成して権限を割り当てるができます。

フォルダを作成するには：

- 1 ZENworks Reporting にログインします。
- 2 表示] > [リポジトリの順にクリックします。
- 3 フォルダパネルで、フォルダを右クリックし、フォルダの追加をクリックします。
- 4 フォルダの追加ダイアログボックスで、名前を指定して、追加をクリックします。  
ユーザまたは役割を使用して、作成したフォルダに許可を指定できます。

#### 4.3.6 フォルダの移動

フォルダおよびリソースに対する読み込み権限がある場合、フォルダからコピーして、書き込み許可のある別の移動先フォルダに貼り付けることができます。切り取りオプションは、フォルダおよびリソースへの書き込み許可がある場合にのみ使用できます。

---

注：再配置されたオブジェクトは、移動先フォルダから許可を継承します。オブジェクトに対する許可を変更するには、許可を明示的に設定します。

---

フォルダおよびリソースを移動するには：

- 1 次の許可を持つユーザとして ZENworks Reporting にログインします。
  - ◆ 移動するフォルダまたはリソースに対する読み取り許可。
  - ◆ 移動先フォルダに対する書き込み許可。
- 2 **表示** > [リポジトリの順にクリックします。
- 3 **フォルダパネルで、レポート** > [ZENworks> フォルダの追加の順にクリックします。
- 4 **フォルダの追加** ダイアログボックスで、「ZENworks Reports」などの名前を入力します。
- 5 **追加** をクリックします。

ZENworks Reports フォルダが ZENworks のサブフォルダとして表示され、親フォルダに対する管理者ユーザのデフォルトの許可 (読み込み - 書き込み - 削除) を継承します。
- 6 ZENworks Reports フォルダは、より目立つ場所に作成した方が効果的です。そのため、1 レベル上に移動します。
  - 6a **フォルダ** で、[ZENworks Reports] を右クリックして、**Cut (切り取り)** をクリックします。
  - 6b **Reports** を右クリックして、**貼り付け** を選択します。

これで、ZENworks Reports フォルダは ZENworks と同じレベルの Reports 内に表示されるようになります。

---

**注：**許可に従って、リポジトリの任意の場所にフォルダを再配置できます。ただし、これには1つの例外があり、同じ場所にフォルダをコピーして貼り付ける操作はサーバではサポートされていません。移動先フォルダを右クリックしたときに貼り付けが無効になっている場合、そのフォルダに対する書き込み許可がありません。

---

## 4.4 ZENworks Reporting 設定の管理

管理者は ZENworks Reporting 設定を管理できます。

- ◆ 68 ページのセクション 4.4.1 「ログ設定の管理」
- ◆ 71 ページのセクション 4.4.2 「アドホック設定の管理」
- ◆ 73 ページのセクション 4.4.3 「アドホックキャッシュ設定の管理」
- ◆ 75 ページのセクション 4.4.4 「インポート設定の管理」
- ◆ 76 ページのセクション 4.4.5 「エクスポート設定の管理」

### 4.4.1 ログ設定の管理

jasperserver.log ファイルは、次のパスにあります。

- ◆ **Windows の場合：** %ZRS\_HOME%\js\apache-tomcat\webapps\jasperserver-pro\WEB-INF\logs
- ◆ **Linux の場合：** /opt/novell/zenworks-reporting/js/apache-tomcat/webapps/jasperserver-pro/WEB-INF/logs

ログ設定を管理するには：

- 1 **管理**] > [**Server Settings (サーバ設定)**] > [**ログ設定の順にクリック**します。
- 2 **ログ設定**ページで、ドロップダウンリストを使用して、ログに記録する各クラスのログレベルを変更します。  
4つのログレベルは、ロガーによって記録されるイベントのタイプを示します。

設定	情報のレベル
ERROR	プログラムの重大な欠陥を示す最小限の情報をログに書き込みます。
WARN	エラーおよび警告メッセージをログに書き込みます。警告メッセージには、ログに記録されたイベントが注意を必要とするかどうかを示す警告情報が含まれます。
INFO	エラー、警告、および情報メッセージをログに書き込みます。情報メッセージは、アプリケーションのパフォーマンスに影響を及ぼすイベントなどの重要なイベントを示します。
DEBUG	エラー、警告、情報、および追加のメッセージをログに書き込みます。デバッグメッセージは非常に詳細です。この設定は問題を診断する場合にのみ使用します。DEBUG は、システムパフォーマンスに影響を及ぼすため、本番環境では使用しないでください。

次の表に、[ログ設定] ページに表示される各ロガー名を示します。この表を使用して、ログファイルの特定のログおよびロガーの説明を確認します。

ロガー名	ログの識別子	説明
SQL query executer (SQL クエリ実行プログラム)	JRJdbcQueryExecute	SQL query executer によって実行されるクエリの SQL テキストとパラメータ値をログに記録します。
Input control value queries (入力コントロール値のクエリ)	valueQueryLog	入力コントロールに関連付けられたクエリの SQL テキストとパラメータ値をログに記録します。
Cascading input control parameter resolution (カスケード入力コントロールパラメータの解決)	FilterCore	カスケード入力コントロールに関連付けられたアクティビティをログに記録します。クエリ駆動型の入力コントロールは、別の入力コントロールから取得された値を持つパラメータがクエリにある場合にカスケードできません。パラメータ値が変更されると、クエリが自動的に再実行され、入力コントロールの値のリストが変更される可能性があります。
Cascading input control query result caching (カスケード入力コントロールのクエリ結果のキャッシュ)	TokenControlLogic	カスケード入力コントロールクエリの結果に対するキャッシュの使用状況をログに記録します。
Hibernate SQL	SQL	Hibernate 層により、ZENworks Reporting リポジトリデータベースにアクセスするために実行される SQL をログに記録します。このロガーは、パフォーマンスに影響を及ぼす可能性のある大量のログを生成します。

ロガー名	ログの識別子	説明
Ad Hoc data policy logging (アドホックデータポリシーログ)	CommonDomainDataStrategy SubFilterInputControlGenerator  その他	SQL クエリまたはメモリ内操作を使用してアドホックビューのデータセットを取得する、アドホックデータポリシー実装のさまざまなアクティビティのログを記録します。
SQL generated for Domain queries (ドメインクエリに対して生成された SQL)	JdbcBaseDataSet	ドメインを使用したクエリから生成された SQL クエリのログを記録します。
Connection handling for Domains (ドメインの接続処理)	DataSourceResolverImpl	SQL クエリを実行するためにドメインによって使用される JDBC 接続の使用状況をログに記録します。
Expression to JSON converter (式 - JSON コンバータ)	ExpressionJSONConverter	アドホックフィルタによって使用される、DomEL と JSON 間の変換に関する情報をログに記録します。
Domain-based security tests (ドメインベースのセキュリティテスト)	SemanticLayerSecurityResolverImpl	ドメインの列レベルおよび行レベルのセキュリティに関するアクティビティをログに記録します。
Cascading input control resolution for Domains (ドメインのカスケード入力コントロールの解決)	DomainFilterResolver	前に記載した FilterCore ロガー (Cascading input control parameter resolution) と同じアクティビティをログに記録しますが、ドメインクエリに固有の情報を追加します。
Ad Hoc cache activity (アドホックキャッシュアクティビティ)	CachedData	アドホックビューにアクセスしたときにメモリ内にキャッシュされるデータセットのライフサイクルに関する情報をログに記録します。
Timing for SQL queries run for reports (レポートの SQL クエリの実行タイミング)	JsControlledJdbcQueryExecuter	SQL query executer によって実行されたクエリがレポートにデータを返すまでの時間をログに記録します。
Ad Hoc WorkingDataSet (アドホック WorkingDataSet)	WorkingDataSet	クエリ結果のメモリ内データセット変換を実行するためにアドホックエディタによって使用される WorkingDataSet のアクティビティをログに記録します。
General controller (汎用コントローラ)	AdhocAjaxController	アドホックエディタのアクティビティをログに記録します。
Crosstab controller (クロス集計コントローラ)	AdhocCrosstabAjaxController	クロス集計レポートに固有のアドホックエディタの追加アクティビティをログに記録します。

ロガー名	ログの識別子	説明
Groovy code generation for memory datasets (メモリデータセットのGroovy コード生成)	GroovyGenerator	フィルタおよび計算フィールドに対してアドホックエディタが使用する DomEL 式から生成された Groovy クラスをログに記録します。
Ad Hoc AJAX requests (アドホック AJAX 要求)	adhocAjaxRequests	レポートパラメータおよび応答時間を含む、アドホックエディタおよびダッシュボードデザイナーによって実行される AJAX 要求に関する情報をログに記録します。アドホックエディタおよびダッシュボードデザイナーでエラーが発生するか、応答時間が遅い場合、この設定を有効にします。
Ad Hoc cache activity (アドホックキャッシュアクティビティ)	com.jaspersoft.commons.datarator.Cached Data	状態間で遷移した際に、アドホックキャッシュによって管理されるデータセットのライフサイクルを追跡します。このログ出力には、アドホックキャッシュからの情報がトラブルシューティングに役立つ形式で含まれません。この設定を使用して、アドホックエディタのパフォーマンスと応答性にクエリ応答時間がどのくらい寄与しているかを把握します。クエリ自体はログに記録されないため、SQL Query Executer (SQL クエリ実行プログラム) ログ設定と一緒に使用します。

- 3 ロガーを追加するには、ページの下部までスクロールします。
- 4 ドロップダウンを使用してログレベルを設定します。

## 4.4.2 アドホック設定の管理

アドホック設定により、アドホックビューの設計および実行時にクエリで利用可能なリソースを制限します。設定できるクエリは次のとおりです。

- ◆ **Ad Hoc Filter List of Values Row Limit (アドホックフィルタの値リストの行制限)**: ユーザがドメインに基づくアドホックビューにフィルタを定義するときに、条件エディタに表示される最大項目数。ユーザがフィルタを定義するときにこの制限を超えた場合、ZENworks Reporting にメッセージが表示されます。これをより低い値に設定するとパフォーマンスを向上できます。
- ◆ **Ad Hoc Dataset Row Limit (アドホックデータセットの行制限)**: アドホックビューが返すことができる最大行数。制限に達すると、ZENworks Reporting はデータを切り捨てます。これをより低い数に設定すると、パフォーマンスを向上できますが、レポートにデータセット全体が反映されない場合があります。
- ◆ **Ad Hoc Query Timeout (アドホッククエリのタイムアウト)**: クエリの実行時にアドホックビューをタイムアウトするまでのサーバ待機秒数。これをより低い数に設定すると、アドホックビューの実行時にユーザに対して例外が表示されなくなる場合があります。これをより高い数に設定すると、複雑な計算がタイムアウトするのを回避できますが、より多くのデータベース接続を使用することになります。

アドホック設定を設定するには：

- 1 **管理** > **[Server Settings (サーバ設定)]** の順にクリックして、**Ad Hoc Settings (アドホック設定)** を選択します。
- 2 **Ad Hoc Filter List of Values Row Limit (アドホックフィルタの値リストの行制限)** で、ユーザがドメインに基づくアドホックレポートにフィルタを定義するときに、条件に表示される最大項目数を指定します。
- 3 **Ad Hoc Dataset Row Limit (アドホックデータセットの行制限)** で、アドホックビューが返すことができる最大行数を指定します。
- 4 **Ad Hoc Query Timeout (seconds) (アドホッククエリのタイムアウト (秒))** フィールドで、クエリ実行時にアドホックレポートをタイムアウトするまでのサーバ待機秒数を指定します。
- 5 **変更** をクリックして、変更内容を保存します。

## データポリシーの理解

データポリシーは、ZENworks Reporting が特定のタイプのアドホックビューのデータロードと処理を実行する方法を決定します。これにより、データのキャッシュ方法と、特定の計算が発生する状況が決まります。たとえば、ドメインベースのレポートがアクセスするデータを、サーバがメモリ内で処理するのではなく、データベースでグループ化、ソート、および集計するように指定できます。

設定できるデータポリシーは次のとおりです。

- ◆ **Optimize Queries for JDBC-based Reports (JDBC ベースレポート用にクエリを最適化)：**  
JDBC ベースレポート用のクエリのグループ化、ソート、および集計を選択します。選択しない場合、クエリは変更されないままメモリ内で実行されます。
- ◆ **Optimize Queries for Domain-based Reports (ドメインベースレポート用にクエリを最適化)：**ドメインベースレポート用のクエリのグループ化、ソート、および集計を選択します。選択しない場合、クエリは変更されないままメモリ内で実行されます。

データポリシーを設定するには：

- 1 **管理** > **[Server Settings (サーバ設定)]** > **[Ad Hoc Settings (アドホック設定)]** の順にクリックします。
- 2 JDBC ベースレポートのクエリを処理する場合、**Optimize Queries for JDBC-based Reports (JDBC ベースレポート用にクエリを最適化)** を選択します。
- 3 ドメインベースレポートのクエリを処理する場合、**Optimize Queries for Domain-based Reports (ドメインベースレポート用にクエリを最適化)** を選択します。
- 4 **変更** をクリックして、現在の設定を保存します。

---

注：これらのデータポリシー設定は、リポジトリ内のアドホックビューから作成された既存のレポートを更新しません。既存のレポートのデータポリシーを変更するには、適切なポリシー設定を選択し、対応するビューをアドホックエディタで開き、レポートを再び保存します。

---



## 4.4.3 アドホックキャッシュ設定の管理

ZENworks Reporting は、アドホッククエリの結果セットを再使用するために一時的にキャッシュできます。キャッシュには、アドホックビューの作成時または実行時にクエリから生成されたデータが入力されます。データセットは、クエリ自体、データソース URL、およびクエリ発行時に使用されたパラメータを参照するキーで一意に識別されます。

キャッシュにより、データベースの負荷が軽減され、頻繁に使用されるデータセットが素早くユーザに提供されます。キャッシュは、レポート作成時だけでなくレポート実行時にも適用されます。アドホックキャッシュを設定することにより、使用パターンに合わせてメモリ使用率および応答時間を最適化できます。

### キャッシュの設定

デフォルトでは、各ユーザのデータセットは別々にキャッシュされ、キャッシュキーのパラメータでユーザを識別します。このユーザ単位のキャッシュにより、異なるユーザが同じクエリを実行した場合、データセットが重複する可能性があります。\\WEB-INF\applicationContext-datarator.xml ファイルを編集することにより、ユーザ間でキャッシュデータセットを共有するように ZENworks Reporting を設定できます。

次のコードは、キャッシュキーの作成時にログインユーザの資格情報を無視するように cacheKeyInterceptor を設定します。

---

```
<property name="ignoredParameters"> <list>
... <value>LoggedInUser</value>
<value>LoggedInUsername</value> </list>
</property>
```

---

コードを追加したら、ZENworks Reporting を再起動してください。

### キャッシュの設定

キャッシュにより、データ取得とソートの全体的なパフォーマンスが向上しますが、未使用のデータセットがメモリを消費する可能性があります。これらの問題を解決するために、キャッシュをクリアする頻度を設定する必要があります。

キャッシュを自動的にクリアする頻度を設定するには、次の設定ファイルを編集します。

---

## アドホックキャッシュの例外

---

設定ファイル

...\\WEB-INF\\adhoc-ehcache.xml

プロパティ	デフォルト値	説明
maxEntriesLocalHeap	1	ローカルヒープメモリ内のキャッシュの最大数。
timeToIdleSeconds	300	データセットがアクセスされてから、キャッシュから削除されるまでの待機秒数。デフォルトは 30 分です。制限なしの場合は 0 (ゼロ) を使用します。
timeToLiveSeconds	300	データセットが繰り返しアクセスされている場合でも、データセットをキャッシュに格納する最大時間。古いデータが定期的に置き換えられるようにします。デフォルトは 90 分です。制限なしの場合は 0 (ゼロ) を使用します。

---

設定ファイルを編集したら、ZENworks Reporting を再起動してください。

## キャッシュの手動クリア

管理者はクエリを表示することはできますが、キャッシュ内にあるデータセットのコンテンツは表示できません。[Ad Hoc cache (アドホックキャッシュ)] ページには、各クエリに関するパフォーマンスデータも表示されます。この情報は、パフォーマンスの問題を解決する場合に役立ちます。

クエリの値は次のとおりです。

- Query (クエリ) (ミリ秒) – クエリがデータソース(データベース)に送信されたときに、最初の行を受け取るまでに使われたミリ秒単位の時間。
- Fetch (フェッチ) (ミリ秒) – 最初の行をデータソース(データベース)から受け取ってから最後の行を受け取るまでのミリ秒単位の時間。
- Memory used (使用中のメモリ) (MB) – キャッシュエントリに格納される結果データセットのメガバイト単位のサイズ。

最新のデータをフェッチする必要がある場合、管理者は [Ad Hoc cache (アドホックキャッシュ)] ページでデータセットを手動で削除することもできます。

アドホックキャッシュを表示して手動でクリアするには：

- 1 **管理 > Server Settings (サーバ設定) > Ad Hoc Cache (アドホックキャッシュ)** の順にクリックします。  
[Ad Hoc Cache (アドホックキャッシュ)] ページには、キャッシュ内にあるすべてのデータセットが経過時間順にソートされて表示されます。
- 2 **Query & Source (クエリとソース)** 列で、詳細を表示するクエリをクリックします。  
[Detail (詳細)] ページには、キャッシュされているデータセットの行数など、選択したクエリの追加情報が表示されます。
- 3 キャッシュからデータセットを削除するには、**クリア** をクリックします。
- 4 すべてのデータセットを削除するには、[Ad Hoc Cache (アドホックキャッシュ)] ページの最上部で、**Clear All (すべてクリア)** をクリックします。

## 4.4.4 インポート設定の管理

インポート設定により、インポート手順を簡素化できます。インポートは稼働中のサーバ上で処理され、インポートされたすべてのリソースは直ちに表示されます。また、インポートされたカタログに含まれる環境設定やセキュリティ設定は、サーバを再起動しなくても直ちに反映されます。

インポートはコマンドプロンプト経由でのみ実行する必要があります。

### コマンドラインからのインポート

使用法 : `js-import [OPTIONS]`

---

**注 :** キャッシュ、環境設定、およびセキュリティの問題を回避するため、インポートコマンドラインユーティリティを使用する前にサーバを停止することをお勧めします。

---

ファイルシステムからリポジトリカタログを読み込み、ZENworks Reporting リポジトリ内に指定されたリソースを作成します。エクスポートインタフェースまたは `js-export` コマンドによって、ZIP アーカイブファイルまたはフォルダ構造のいずれかとしてリポジトリカタログが作成されている必要があります。

表 4-2 `js-import` コマンドのオプション

---

オプション	説明
<code>--help</code>	利用可能なオプションに関する簡潔な情報を表示します。
<code>--input-dir</code>	ディレクトリからカタログをインポートするためのパス。
<code>--input-zip</code>	zip ファイルからカタログをインポートするためのパスおよびファイル名。
<code>--update</code>	URL およびタイプが一致する場合、カタログ内のリソースでリポジトリ内のリソースを置き換えます。
<code>--skip-user-update</code>	<code>--update</code> と共に使用した場合、カタログ内のユーザをインポートまたは更新しません。このオプションは、現在定義されているユーザを上書きしないでカタログをインポートする場合に使用します。
<code>--include-access-events</code>	インポートされたリソースのアクセスイベント (最終変更日時とユーザ名) を復元します。
<code>--include-audit-events</code>	Professional Edition 専用です。カタログに存在する監査データをインポートします。
<code>--include-monitoring-events</code>	Professional Edition 専用です。カタログに存在するモニタリングデータをインポートします。
<code>--include-server-settings</code>	カタログからシステム環境設定を更新するかどうかを決定します。カタログに環境設定を含めるための前提条件は次の 2 つです。  元のサーバ設定は、UI ( [ログ設定]、[Ad Hoc Settings (アドホック設定)]、[Ad Hoc Cache Settings (アドホックキャッシュ設定)] ) から変更する必要があります。  カタログは、ユーザインタフェースまたはコマンドラインユーティリティから「everything」オプションを使用してエクスポートする必要があります。  サーバ設定をインポートした場合、サーバを起動するとすぐに反映されます。

---

例 :

- ◆ myExport.zip カタログアーカイブファイルをインポートします。

```
js-import --input-zip myExport.zip
```

- ◆ myDir カタログフォルダをインポートし、既存のリソースの URI とタイプがカタログで見つかったリソースと一致する場合、既存のリソースを置き換えます。

```
js-import --input-dir myDir --update
```

- ◆ myExport.zip カタログアーカイブファイルをインポートしますが、カタログで見つかったユーザは無視します。

```
js-import --input-zip myExport.zip --update --skip-user-update
```

- ◆ myDir カタログフォルダをアクセスイベントとともにインポートします。

```
js-import --input-dir myDir --include-access-events
```

## 4.4.5 エクスポート設定の管理

エクスポート設定を使用すると、システム管理者用の [Server Settings (サーバ設定)] ページを使用して、リポジトリコンテンツに加え (またはリポジトリコンテンツの代わりに) ユーザおよび役割をエクスポートできます。

- 1 [管理] > [Server Settings (サーバ設定)] > [エクスポート] の順にクリックします。

- 2 エクスポートするカタログの zip ファイルの名前を指定します。

Web UI では zip アーカイブフォーマットのみがサポートされています。

- 3 次のチェックボックスを使用して、エクスポートされたカタログファイルのコンテンツを選択します。

- ◆ **Export Everything (すべてをエクスポート)** をオンにすると、リポジトリ全体がエクスポートされます。これには、許可とレポートジョブのほかに、すべての組織、ユーザ、および役割も含まれます。

リソース変更時間を含める場合は、**Include access events (アクセスイベントを含める)** をオンにします。

- ◆ **Export Everything (すべてをエクスポート)** チェックボックスをオフにし、エクスポートするユーザと役割のみを選択します。

役割とユーザのみを選択する場合は、**Include users with selected roles (ユーザと選択した役割を含める)** をオンにします。

- ◆ いずれの場合も、**Include audit events (監査イベントを含める)** および **Include monitoring events (モニタリングイベントを含める)** を別々にオンにできます。

- 4 エクスポートをクリックします。

サーバによってカタログ zip ファイルが生成され、カタログのサイズと選択したオプションに応じて、ファイルの保存を求めるプロンプトが表示されます。

## コマンドラインからのエクスポート

使用法 : js-export [OPTIONS]

---

**注:** エクスポートユーティリティを実行する前にサーバインスタンスを停止することをお勧めします。

---

ファイルシステムにエクスポートするリポジトリリソース ( レポート、イメージ、フォルダ、スケジュールされたジョブなど ) を指定します。スケジュールされたジョブ、ユーザ、役割、および既存の監査データの内部定義をエクスポートすることもできます。エクスポート出力はリポジトリカタログと呼ばれ、1 つのアーカイブファイルか、フォルダ構造になった一連のファイルのいずれかです。

**表 4-3** *js-export* コマンドのオプション

---

オプション	説明
--everything	監査およびモニタリングデータを除くすべてをエクスポートします。つまり、すべてのリポジトリリソース、許可、レポートジョブ、ユーザ、および役割をエクスポートします。UI でサーバ設定が変更されている場合は、これらの変更も組み込まれます。このオプションは次のコマンドと同じです。  --uris --repository-permissions --report-jobs --users --roles
--help	利用可能なオプションに関する簡潔な情報を表示します。
--include-access-events	アクセスイベント ( 最終変更日時とユーザ名 ) をエクスポートします。
--output-dir	出力カタログフォルダを作成するディレクトリのパス。
--output-zip	作成する出力カタログ zip ファイルのパスとファイル名。
--report-jobs	レポートユニットジョブをエクスポートするリポジトリレポートユニットおよびフォルダ URI のカンマ区切りのリスト。フォルダ URI の場合、このオプションは、フォルダ内にあるすべてのレポートのスケジュールされたジョブをエクスポートし、さらに、再帰的にすべてのサブフォルダ内にあるジョブをエクスポートします。
--repository-permissions	このオプションが指定されている場合、エクスポートされたフォルダおよびリソースそれぞれとともに、リポジトリ許可がエクスポートされます。  このオプションは、--uris と併用する場合にのみ使用してください。
--roles	エクスポートする役割のカンマ区切りのリスト。このオプションで役割を指定していない場合、すべての役割がエクスポートされます。
--role-users	このオプションが指定されている場合、役割がエクスポートされるたびに、その役割に属するすべてのユーザのエクスポートがトリガされます。このオプションは、--roles と併用する場合にのみ使用してください。
--uris	リポジトリ内のフォルダまたはリソース URI のカンマ区切りのリスト。
--users	エクスポートするユーザのカンマ区切りのリスト。このオプションでユーザを指定していない場合、すべてのユーザがエクスポートされます。ユーザのエクスポートにはすべてのユーザ属性が含まれます。また、整合性を維持するため、ユーザに割り当てられたすべての役割もエクスポートされます。ユーザを指定する際、該当する場合は組織 ID を指定する必要があります。次に例を示します。  --users user1, "user2 organization_1", ...
--include-audit-events	すべてのリソースおよびユーザの監査データをエクスポートに含めます。

---

---

**オプション**    **説明**

---

--include-monitoring-events    すべてのリソースおよびユーザのモニタリングデータをエクスポートに含めます。

---

例 :

- ◆ リポジトリ内のすべてをエクスポートします。

```
js-export --everything --output-dir myExport
```

- ◆ /reports/samples/AllAccounts レポートユニットをカタログフォルダにエクスポートします。

```
js-export --uris /organizations/organization_1/reports/samples/AllAccounts --output-dir myExport
```

- ◆ /images および /fonts フォルダをエクスポートします。

```
js-export --uris /organizations/organization_1/images,/organizations/organization_1/reports --output-dir myExport
```

- ◆ すべてのリソース ( ユーザ、役割、およびジョブスケジュールを除く ) とその許可を zip カタログにエクスポートします。

```
js-export --uris / --repository-permissions --output-dir myExport.zip
```

- ◆ すべてのリソースとレポートジョブをエクスポートします。

```
js-export --uris / --report-jobs / --output-dir myExport
```

- ◆ /reports/samples/AllAccounts レポートユニットのレポートジョブをエクスポートします。

```
js-export --report-jobs /organizations/organization_1/reports/samples/AllAccounts --output-dir myExport
```

すべての役割とユーザをエクスポートします。

```
js-export --roles --users --output-dir myExport
```

- ◆ ROLE\_USER および ROLE\_ADMINISTRATOR の役割を、各役割に属するすべてのユーザとともにエクスポートします。

```
js-export --roles ROLE_USER, ROLE_ADMINISTRATOR --role-users --output-dir myExport
```

# A ZENworks Reporting のトラブルシューティング

次の各項では、ZENworks Reporting の使用時に発生する可能性がある問題の解決方法を示します。

- ◆ 79 ページの「[Sample Data ( サンプルデータ ) ] または [Full Data ( フルデータ ) ] 機能を使用してアドホックビューを作成する際に数分かかる場合がある」
- ◆ 79 ページの「ZENworks のスケジュールされたレポートでエラーメッセージが表示される」
- ◆ 80 ページの「RTF ファイル形式でレポートをエクスポートすると、レポートが期待どおりに動作しない場合がある」

## [Sample Data ( サンプルデータ ) ] または [Full Data ( フルデータ ) ] 機能を使用してアドホックビューを作成する際に数分かかる場合がある

ソース : ZENworks Reporting.

説明 : アドホックビューを作成する際に、**Sample Data ( サンプルデータ )** または **Full Data ( フルデータ )** 機能を使用した場合、ビュー ( 列、グループ、およびフィルタ ) にフィールドを追加するたびに、データベースクエリが実行され、これに数分間要する場合があります。

アクション : **No Data ( データなし )** 機能を使用してアドホックビューを作成し、パフォーマンスを向上します。ビューを設計した後で、**Sample Data ( サンプルデータ )** または **Full Data ( フルデータ )** 機能に切り替えて、期待する結果を表示できます。

## ZENworks のスケジュールされたレポートでエラーメッセージが表示される

ソース : ZENworks Reporting.

説明 : メッセージの長さが 1,000 文字を超える場合、電子メールを送信できません。

アクション : security.properties ファイルの mailNotification.messageText のデフォルトの長さを次のように増やします。

1 次のパスに移動します。

- ◆ **Windows の場合** : %ZRS\_HOME%\js\apache-tomcat\webapps\jasperserver-pro\WEB-INF\classes\esapi
- ◆ **Linux の場合** : /opt/novell/zenworks-reporting/js/apache-tomcat/webapps/jasperserver-pro/WEB-INF/classes/espai

2 security.properties ファイルをバックアップします。

3 security.properties ファイルを開きます。

- 4 mailNotification.messageText=AlphaDot,AlphaNumPunctuation,1000,  
true,mailNotification.messageText-  
ViewRepository\_Schedule\_OutputSettings\_context を検索し、必要な値で置き換えます。デフォルトのテキスト値を変更したら (例: 1,000 から 5,000)、次の検索から、変更した値を指定して検索します。
- 5 ZENworks Reporting サービスを再起動します。

## RTF ファイル形式でレポートをエクスポートすると、レポートが期待どおりに動作しない場合がある

ソース: ZENworks Reporting

説明: RTF ファイル形式でレポートをエクスポートすると、レポートが期待どおりにエクスポートされない場合があります。

アクション: PDF ファイル形式または Excel ファイル形式を使用してレポートをエクスポートします。